

平成30年度 全国学力・学習状況調査



北九州市環境マスコットキャラクター
ていたん & ブラックていたん
©ていたん & ブラックていたん, 北九州市

北九州市教育委員会

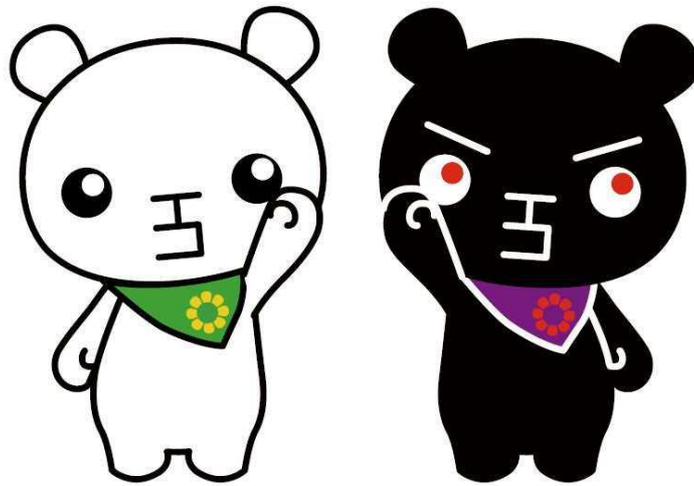
目 次

平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告

【 調査結果と分析 】

(1) 教科に関する調査結果の概要	3
(2) 成果と課題 ～本年度の正答率に見られる顕著な状況～	4
(3) 調査結果の経年比較	5
(4) 各教科の分析結果	9
(5) 正答数分布グラフの経年比較	29
(6) 学力に影響を与える要因	34
(7) 学習状況調査結果 ～「学びの育ち」と「心の育ち」の更なる成長に向けて～	35
① 学びの育ち	37
② 心の育ち	47
(8) 学力向上アクションプランの成果と今後の方向性	53

【調査結果と分析】



(1) 教科に関する調査結果の概要

平成30年4月に市立の全小・中学校において全国学力・学習状況調査を実施した。調査の概況は以下のとおりである。

1 実施学年・調査内容

- ◇ 実施学年 市立の全小学校・関係特別支援学校 第6学年(133校)
市立の全中学校・関係特別支援学校 第3学年(64校)
- ◇ 調査内容 ① 教科に関する調査 小学校…国語・算数・理科 中学校…国語・数学・理科
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 調査集計者数 小学校児童数 7,703人 中学校生徒数 7,034人

3 調査日 平成30年4月17日(火)

結果の概要

国語

- ・小学校A問題で、全国平均を上回った。
- ・小学校B問題、中学校A・B問題ともに、全国平均に近づいている。

算数・数学

- ・中学校A問題は、平成28年度から横ばいの状況が続いている。
- ・小学校A・B問題、中学校B問題は一進一退の状況である。

理科

- ・小・中学校ともに、全国平均に近づいている。
- ・前回調査と比較すると、小・中学校ともに上昇している。

教科に関する調査(国語, 算数・数学, 理科)

小学校6年生	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
H30 年度本市平均	8.5 / 12 問	71%	4.3 / 8 問	54%	8.6 / 14 問	61%	5.0 / 10 問	50%	9.6 / 16 問	60%
H30 年度全国平均	8.5 / 12 問	71%	4.4 / 8 問	55%	8.9 / 14 問	64%	5.1 / 10 問	52%	9.6 / 16 問	60%
全国平均に対する割合	101%		99%		96%		96%		99%	
H29 年度本市平均	11.0 / 15 問	74%	5.1 / 9 問	57%	11.6 / 15 問	77%	4.9 / 11 問	44%		
H29 年度全国平均	11.2 / 15 問	75%	5.2 / 9 問	58%	11.8 / 15 問	79%	5.1 / 11 問	46%		
全国平均に対する割合	98%		99%		98%		97%			
H28 年度本市平均	10.4 / 15 問	70%	5.6 / 10 問	56%	12.1 / 16 問	76%	5.8 / 13 問	45%		
H28 年度全国平均	10.9 / 15 問	73%	5.8 / 10 問	58%	12.4 / 16 問	78%	6.1 / 13 問	47%		
全国平均に対する割合	96%		96%		98%		95%			
H27 年度本市平均	9.4 / 14 問	67%	5.6 / 9 問	62%	11.7 / 16 問	73%	5.7 / 13 問	44%		
H27 年度全国平均	9.8 / 14 問	70%	5.9 / 9 問	65%	12.0 / 16 問	75%	5.9 / 13 問	45%	14.6 / 24 問	61%
全国平均に対する割合	96%		95%		98%		97%		95%	

中学校3年生	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
H30 年度本市平均	24.0 / 32 問	75%	5.4 / 9 問	60%	22.6 / 36 問	63%	6.1 / 14 問	44%	17.3 / 27 問	64%
H30 年度全国平均	24.3 / 32 問	76%	5.5 / 9 問	61%	23.8 / 36 問	66%	6.6 / 14 問	47%	17.9 / 27 問	66%
全国平均に対する割合	99%		99%		95%		93%		97%	
H29 年度本市平均	24.5 / 32 問	77%	6.3 / 9 問	70%	22.2 / 36 問	62%	6.8 / 15 問	45%		
H29 年度全国平均	24.8 / 32 問	77%	6.5 / 9 問	72%	23.3 / 36 問	65%	7.2 / 15 問	48%		
全国平均に対する割合	99%		98%		95%		94%			
H28 年度本市平均	24.3 / 33 問	74%	5.8 / 9 問	64%	21.2 / 36 問	59%	6.1 / 15 問	41%		
H28 年度全国平均	25.0 / 33 問	76%	6.0 / 9 問	67%	22.4 / 36 問	62%	6.6 / 15 問	44%		
全国平均に対する割合	97%		96%		95%		93%			
H27 年度本市平均	24.4 / 33 問	74%	5.7 / 9 問	63%	22.2 / 36 問	62%	5.7 / 15 問	38%		
H27 年度全国平均	25.0 / 33 問	76%	5.9 / 9 問	66%	23.2 / 36 問	64%	6.2 / 15 問	42%	13.3 / 25 問	53%
全国平均に対する割合	97%		96%		96%		91%		94%	

※ Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題である。

※ 結果公表にあたっては、文部科学省の方針に沿って細かい桁における微小な差異は学力面で実質的な違いを示すものではないという考えから、平成28年度より整数値で公表するようにした。

(2) 成果と課題 ～本年度の正答率(全国平均に対する割合)に見られる顕著な状況～

【成果1】 小学校国語Aで、全国平均を上回った。

小学校 28年度 96% → 29年度 98% → 30年度 **101%**

※ 全国平均正答率を100%として比較

【成果2】 小学校国語B, 中学校国語A・B, 理科は全国平均に近づいている。

小学校 国語B 28年度 96% → 29年度 99% → 30年度 **99%**

理科 27年度 95% → 30年度 **99%**

中学校 国語A 28年度 97% → 29年度 99% → 30年度 **99%**

国語B 28年度 96% → 29年度 98% → 30年度 **99%**

理科 27年度 94% → 30年度 **97%**

【成果3】 全国平均を上回る学校数が増加傾向にある。

小学校 28年度 38校 → 29年度 46校 → 30年度 **52校**

中学校 28年度 14校 → 29年度 16校 → 30年度 **21校**

※ 国語, 算数・数学, 理科の平均正答率の合計による比較

【成果4】 全国に比べ、無解答率が減少している。

小学校 国語A 28年度108% → 29年度 83% → 30年度 **58%**

算数B 28年度112% → 29年度106% → 30年度 **91%**

★ 小学校全実施教科で、全国平均無解答率以下を達成。

中学校 国語B 28年度124% → 29年度113% → 30年度 **106%**

理科 27年度125% → 30年度 **104%**

※ 全国平均無解答率を100%として比較

《課題》 小学校算数, 中学校数学Bは、一進一退の状況である。

小学校 算数A 28年度 98% → 29年度 98% → 30年度 **96%**

算数B 28年度 95% → 29年度 97% → 30年度 **96%**

中学校 数学A 28年度 95% → 29年度 95% → 30年度 **95%**

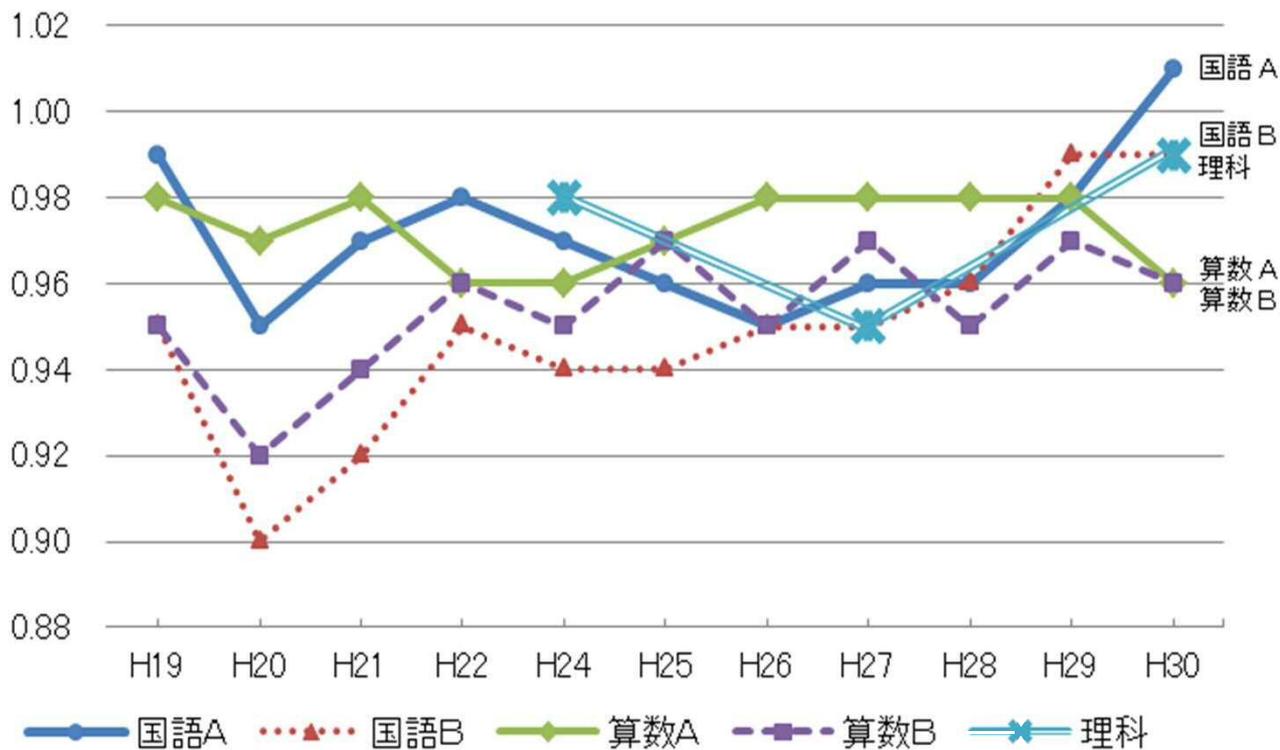
数学B 28年度 93% → 29年度 94% → 30年度 **93%**

(3) 調査結果の経年比較

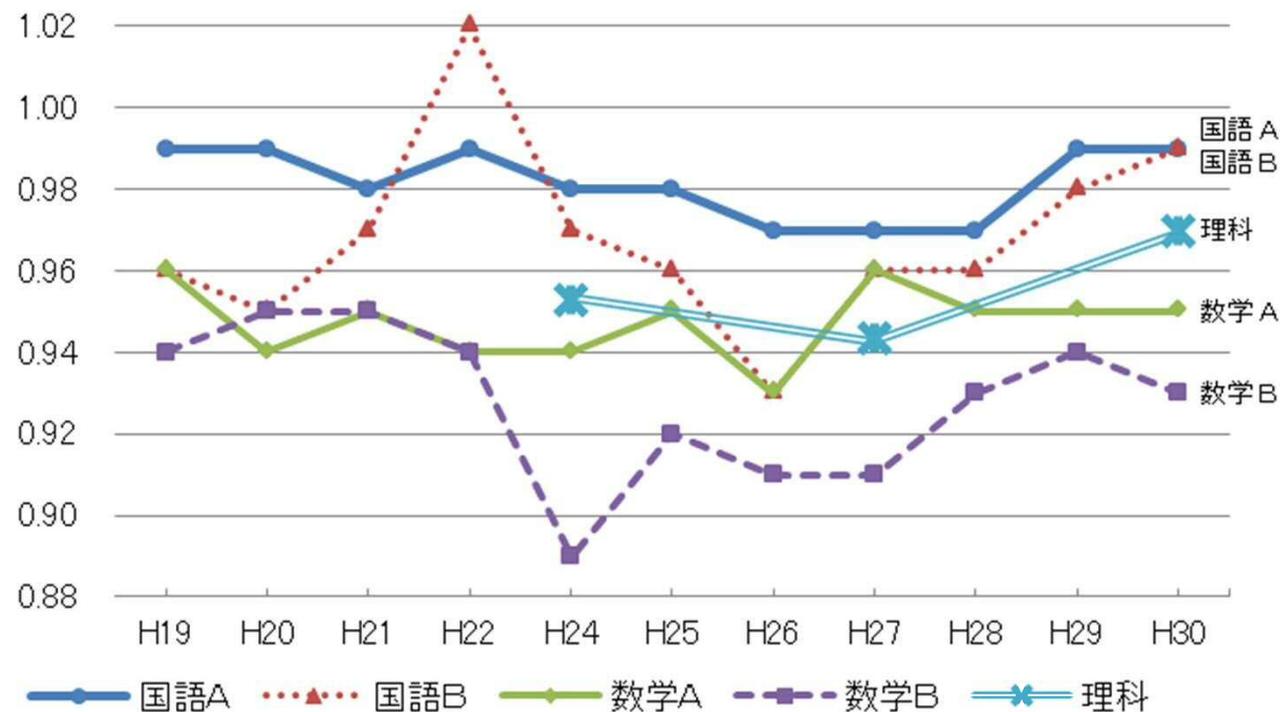
平成22・24年度は、抽出調査及び希望調査利用方式で実施された。
本市では全小・中学校で実施。

■ 全国平均正答率に対する割合(平成19年度～平成30年度)

全国平均正答率に対する割合の推移【小学校】

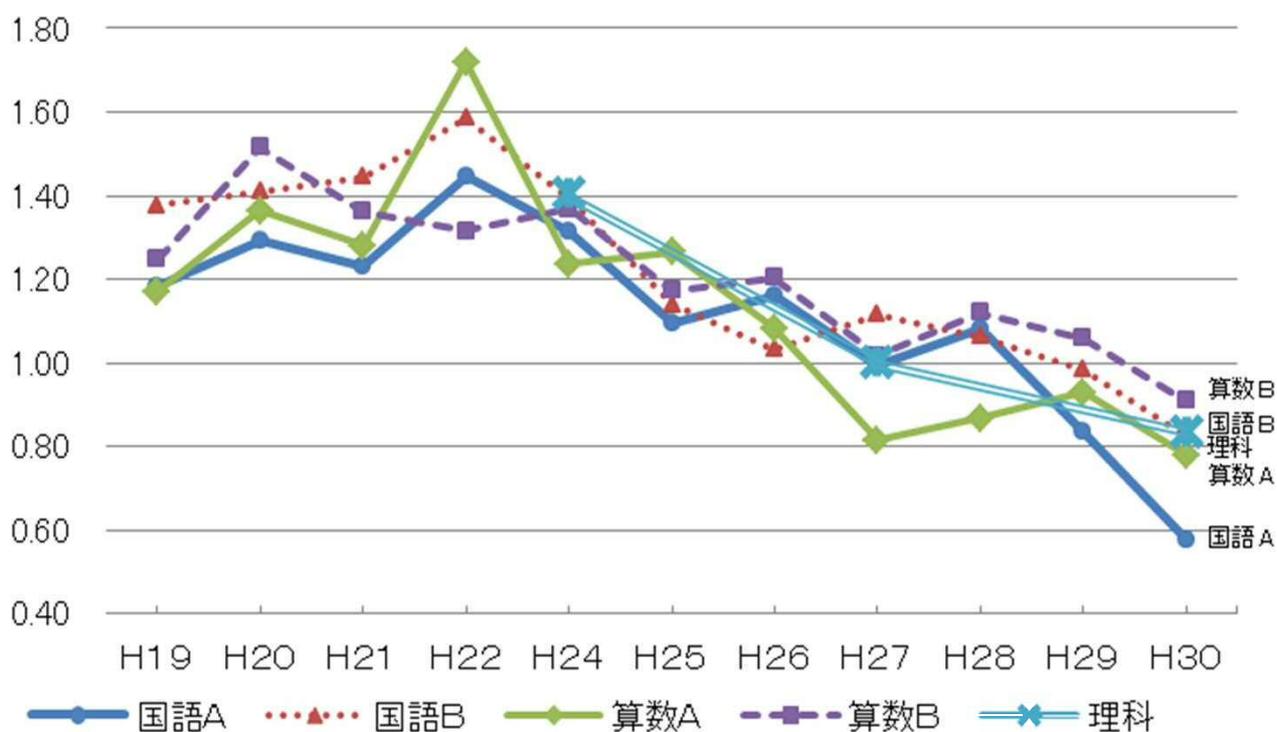


全国平均正答率に対する割合の推移【中学校】

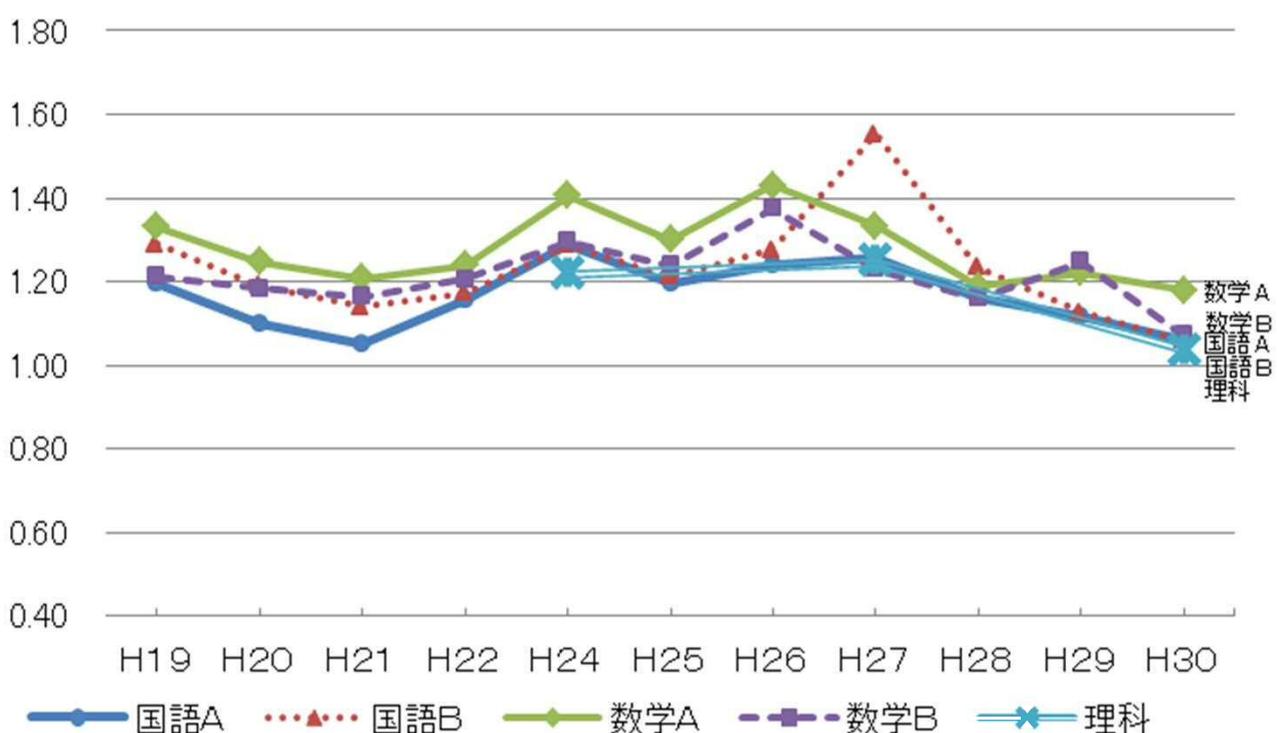


■ 全国平均無解答率に対する割合（平成19年度～平成30年度）

全国平均無解答率に対する割合の推移【小学校】



全国平均無解答率に対する割合の推移【中学校】

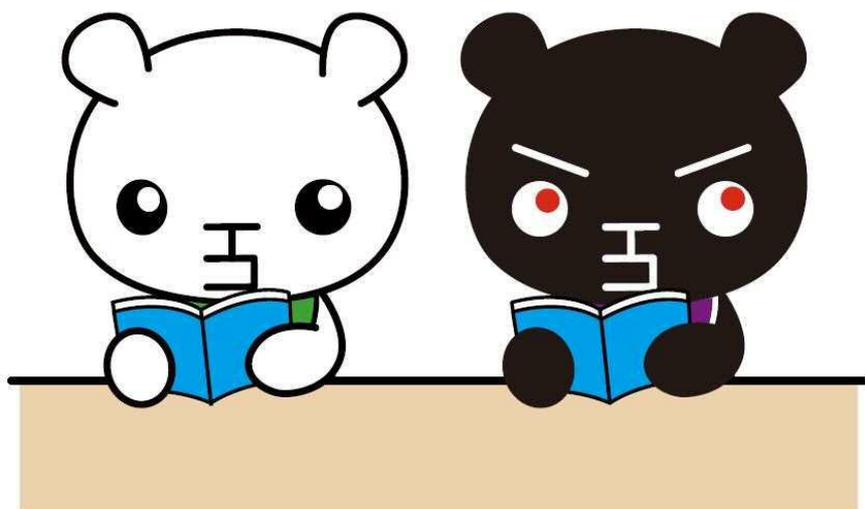


■ 全国平均正答率に対する割合(平成19年度～平成30年度)

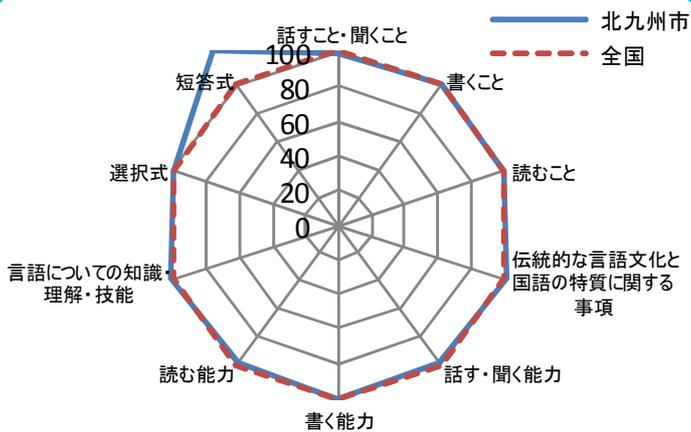
小学校		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	合計	中学校		国語A	国語B	数学A	数学B	理科	合計
H19 年度	本市	81	59	81	61		281	H19 年度	本市	81	69	69	57		276
	全国	82	62	82	64		289		全国	82	72	72	61		286
	対全国比	99%	95%	98%	95%		97%		対全国比	99%	96%	96%	94%		96%
H20 年度	本市	62	45	70	47		225	H20 年度	本市	73	58	60	47		237
	全国	65	51	72	52		240		全国	74	61	63	49		247
	対全国比	95%	90%	97%	92%		94%		対全国比	99%	95%	94%	95%		96%
H21 年度	本市	68	46	77	52		243	H21 年度	本市	76	73	60	54		262
	全国	70	51	79	55		254		全国	77	75	63	57		271
	対全国比	97%	92%	98%	94%		96%		対全国比	98%	97%	95%	95%		96%
H22 年度	本市	82	74	71	47		274	H22 年度	本市	75	66	61	41		243
	全国	83	78	74	49		285		全国	75	65	65	43		248
	対全国比	98%	95%	96%	96%		96%		対全国比	99%	102%	94%	94%		98%
H24 年度	本市	79	52	70	56	60	317	H24 年度	本市	74	61	59	44	49	287
	全国	82	56	73	59	61	331		全国	75	63	62	49	51	300
	対全国比	97%	94%	96%	95%	98%	96%		対全国比	98%	97%	94%	89%	95%	96%
H25 年度	本市	60	46	75	57		238	H25 年度	本市	75	65	60	38		238
	全国	63	49	77	58		248		全国	76	67	64	42		249
	対全国比	96%	94%	97%	97%		96%		対全国比	98%	96%	95%	92%		96%
H26 年度	本市	69	53	76	55		253	H26 年度	本市	77	48	62	54		242
	全国	73	56	78	58		265		全国	79	51	67	60		258
	対全国比	95%	95%	98%	95%		96%		対全国比	97%	93%	93%	91%		94%
H27 年度	本市	67	62	73	44	57	303	H27 年度	本市	74	63	62	38	50	287
	全国	70	65	75	45	61	316		全国	76	66	64	42	53	301
	対全国比	96%	95%	98%	97%	95%	96%		対全国比	97%	96%	96%	91%	94%	95%
H28 年度	本市	70	56	76	45		246	H28 年度	本市	74	64	59	41		237
	全国	73	58	78	47		256		全国	76	67	62	44		248
	対全国比	96%	96%	98%	95%		96%		対全国比	97%	96%	95%	93%		96%
H29 年度	本市	74	57	77	44		252	H29 年度	本市	77	70	62	45		254
	全国	75	58	79	46		257		全国	77	72	65	48		262
	対全国比	98%	99%	98%	97%		98%		対全国比	99%	98%	95%	94%		97%
H30 年度	本市	71	54	61	50	60	296	H30 年度	本市	75	60	63	44	64	306
	全国	71	55	64	52	60	301		全国	76	61	66	47	66	316
	対全国比	101%	99%	96%	96%	99%	98%		対全国比	99%	99%	95%	93%	97%	97%

※ 正答率と対全国比は実際の数値で計算をしているが、整数値で表記している。

【各教科の分析】



領域・観点・問題形式別平均正答率の状況

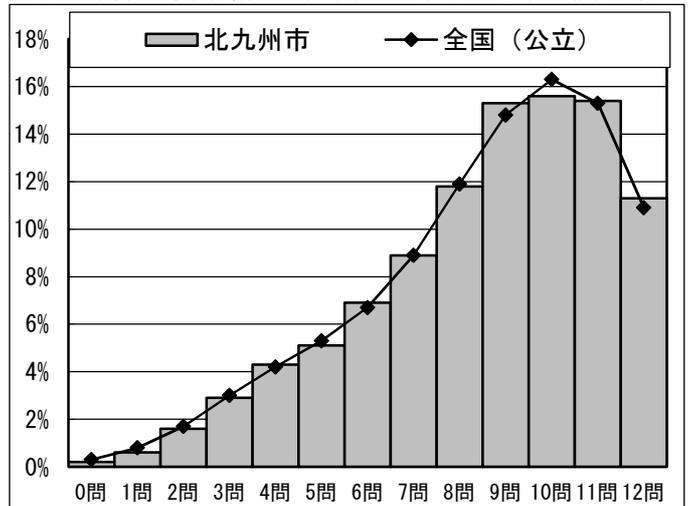


- ◇ 各領域及び観点別の平均正答率の全国との差は、 $-0.7 \sim +0.7$ と、全国平均と同程度だった。
 〈昨年度： $-0.9 \sim -0.4$ 〉
- ◇ 短文式の平均正答率の全国との差は、 $+8.5$ と、全国平均を上回った。
 〈昨年度： -1.1 〉

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

平成30年度 小学校国語A 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



- 全国、北九州市ともに、10問正解の児童の割合が最も多い状況である。

小学校国語Aで成果があった問題

【文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるかどうかをみる問題】

○ 反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことです。

× 反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。

【問われている力】

○ 主語と述語との関係などについての理解
 文を読み返し、主語と述語の照応を考えて書く

【正答例】

反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことです。

4 【正答】

選んだ文の番号……

※解答は、解答用紙に書きましょう。

……部と……部とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までのの中から一つ選んで書きましょう。また、……部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

5

大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、……部と……部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の「春休みの出来事の一部」をよく読んで、あとの(問い)に答えましょう。

【春休みの出来事の一部】 文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

①ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。②ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したので、③今年の春休みは、とてもじゆう爽したものでなりました。でも、反省していることもあります。④反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

北九州市正答率	44.0%	北九州市無解答率	1.7%
全国正答率	35.5%	全国無解答率	3.9%

【参考】類題 H27(2二)
 北九州市正答率 69.1% (全国71.7%)

文中の主語をとらえ、述語の部分の照応させて書くことについて、改善が見られます。

- 【さらなる定着を図るための学習活動例】
- 様々な場面で、意識して書いた文章を読み返す活動を行い、習慣付ける。
 - 主語と述語が整った文で話すなど、日常の言語環境を整える。
 - 学力定着サポートシステムなどを活用し、定着を図る。

小学校国語Aで課題があった問題

【目的に応じて、必要な情報を捉える問題】

何のために、何について調べるのかを明確にし、どのように読むのかを工夫する。

「オムレツをうまく作るために、オムレツのページ」を読み返す。

- 1 「材料」の分量を正確に読む。
- 2 文章全体の内容を表す大きな見出しを読む。
- 3 「作り方」の中から必要な内容を探しながら読む。
- 4 絵と文章を結びつけながら読む。
- 5 「ポイント」に書かれた内容に着目して読む。



（問い） 山本さんと川上さんは、オムレツをうまく作るために、「オムレツのページ」をもう一度読むことにしました。二人はそれぞれ、どのように読めばよいですか。最も適切なものを、次の1から5までのの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

「オムレツを作ったあとの感想」
 「作り方」のとおり、卵を溶きほぐしたのに、黄色いきれいなオムレツにならなかった。次は白いところが残らないようにしたいな。少しこけてしまったから、今度はこげないようにしたいな。どこに気をつけたらよいのだろう。

【オムレツのページ】

ふんわりやわらか
オムレツ
 (調理時間約10分)

材料 (一人分)
 卵……………2個
 バター……………5グラム
 塩……………少々
 こしょう……………少々

作り方
 1 ボウルに卵を割り入れ、溶きほぐし、塩、こしょうで味つけをする。
 2 直径18cmほどの小さめのフライパンを強火にかけ、温まったら弱火にしてバターを入れる。バターが溶けきる前に卵を一気に流し入れる。
 3 フライパンを前後に動かしながら、ざいばして円をえがくように手早く混ぜる。このとき、火が入り過ぎないように、ときどきフライパンを火からおろす。
 4 表面が半熟状になってきたら、フライパンの手前側の卵を向こう側へ折り返す。
 5 向こう側の卵を手前に折り返す。
 6 卵のとじ目が下になるようにお皿に移したらでき上がり。

ポイント
 ○ 卵をよく溶きほぐすためには泡立て器を使うのがコツ。黄身と白身がよく混ざり、でき上がったときにむらがなくなります。
 ○ フライパンに卵を入れるときにチーズを入れると、チーズオムレツを作ることができます。

3 山本さんと川上さんは、「オムレツのページ」を読み、家でオムレツを作りました。次の「オムレツのページ」と「オムレツを作ったあとの感想」をよく読んで、あとの（問い）に答えましよう。

北九州市正答率	72.0%	北九州市無解答率	0.1%
全国正答率	73.9%	全国無回答率	0.2%

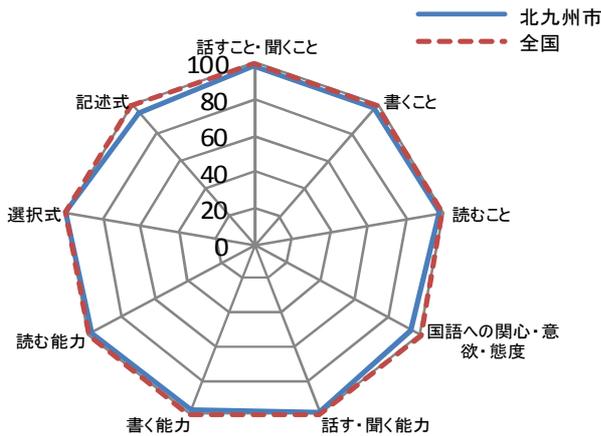
川上さんの「こげないようにしたい」という目的に応じた必要な情報をとらえていない誤答が多くみられました。「こげないようにしたい」という目的と「強火」「弱火」等の火に関する内容とを関係付けてとらえることができていることが原因の一つとして考えられます。

- 【さらなる定着を図るための学習活動例】
- 「何のために調べるのか」「何について調べるのか」を具体的にするための、自分の活動を振り返る活動。
 - 目的に応じて、図鑑や事典、説明書、インターネットの記述などから、「目次や索引、見出しに着目して読む」、「キーワードを見付けながら読む」、「図表と結び付けて読む」など、必要な情報を見付けて読む活動。

今後の取組の方向性

- <目的に応じて必要な情報をとらえて読む力の育成について>
- 国語科で身に付けた、図鑑や事典から必要な情報を得るための方法を、他教科等の学習で生かすことができる機会を低学年の段階から意図的に設定していくことが大切です。
 - 調べる学習を積み重ね、子どもがその有用性を実感できるようにしていきましょう。

領域・観点・問題形式別平均正答率の状況

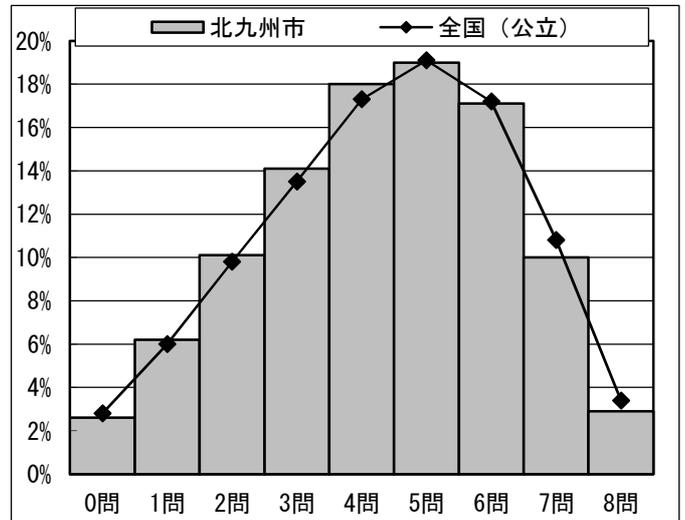


- ◇ 各領域及び各観点別の平均正答率の全国との差は、 $-1.8 \sim -0.8$ と、全国平均と同程度だった。
〈昨年度： $-0.2 \sim +0.3$ 〉
- ◇ 「記述式」の問題の平均正答率の全国との差は、 -1.8 と、全国平均と同程度だった。
〈昨年度： -0.2 〉

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側による山型である。

平成30年度 小学校国語B 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



○ 全国、北九州市ともに、5問正解の割合が最も多い状況である。

小学校国語Bで改善が見られた問題

【話し合いにおける参加者の発言の意図として、適切なものを選択する問題】

- 発表の中で自分が聞きがしたことをもう一度聞くため。
 - 相手の考えの中で最も伝えたいことを伝えるため。
 - 相手の考えとその理由のつながりを明らかにするため。
 - 具体的な例がほかにもあるかを確認するため。
- 【正答】 4

★木村 小池さんに質問があります。時代によって使われ方が変わった言葉は、「全然」以外にどのようなものがありますか。

【話し合いの様子の一部】

田中 自分たちの言葉の使い方を直すために、今日は「生活の中で使っている言葉はみだれている」ということについて、三人の代表の人に考えを発表してもらいます。そして、その意見をもちょう、自分自身から言葉はどう使っているかについて意見を話し合います。考えていきましょう。それでは田中さんから、発表をお願いします。

北川 ぼくは、言葉はみだれていると思います。調べてみると、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉があることが分かったからです。文化庁の「国語に関する意識調査」では、「役不足」という言葉について、「本人の力量に対して役目が不足すること」という本来の意味を通じ、人は四十一、六パーセントでした。半数以上の人、本来の意味とは異なる使われ方をしているようです。

小池 私も、言葉はみだれていると思います。なぜなら、言葉が省略して話す人が多いからです。例えば「今年もよろしくお願ひします」「ごとうごとう」という言葉があります。省略すると相手や場合に合っていない言葉になったり、意味が分からなくなったりすることがあると思います。

田中 ぼくは、言葉はみだれていると思います。例えば、「全然」は「全然ない」というように、あとに打ち消しの言葉がくるときに使うことが多いのですが、最近では「全然いい」という使われ方もあります。また、辞書によると、あとに打ち消しの言葉に接しない時もあるとあります。このように、時代によって言葉の使われ方は異なるから、今までは打ち消しをしない使われ方も、言葉がみだれていることは否めないと思います。

★木村 小池さんに質問があります。時代によって使われ方が変わった言葉は、「全然」以外にどのようなものがありますか。

小池 例えば「見られる」という言葉が、「見られる」という意味で使われています。私たちが「見られる」という意味で使っていますが、辞書には、本来「見られる」という意味で使われていた言葉が、「見られる」という意味で使われるようになったり、「見られる」という意味で使われるようになったりしています。田中さんは、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉は、「見られる」という言葉です。田中さんは、言葉が省略して使われるようになったり、三人の意見について、みなさんどう考えますか。

田中 田中さんは、言葉が省略して使われるようになったり、三人の意見について、みなさんどう考えますか。田中さんは、言葉が省略して使われるようになったり、三人の意見について、みなさんどう考えますか。

田中 田中さんは、言葉が省略して使われるようになったり、三人の意見について、みなさんどう考えますか。田中さんは、言葉が省略して使われるようになったり、三人の意見について、みなさんどう考えますか。

北九州市正答率	82.2%	北九州市無解答率	0.2%
全国正答率	82.5%	全国無回答率	0.4%

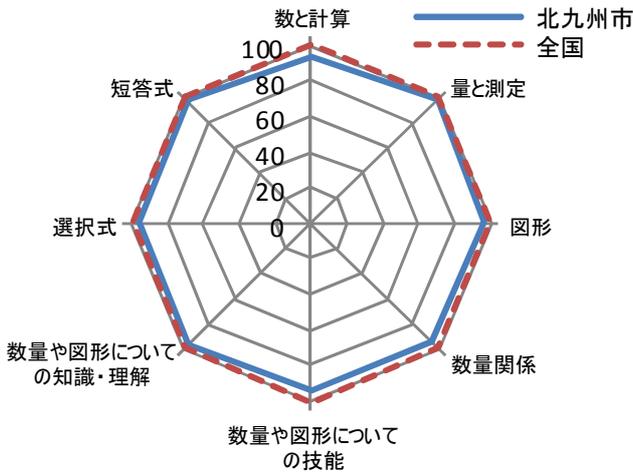
【参考】類題 H26 (B1二)
北九州市正答率 58.2% (全国60.2%)

話し合いにおける参加者の立場や発言の意図をとらえることについて、改善が見られます。

1 松山さんの学級では、自分たちの言葉の使い方を直すために、立場を決めて話し合うことになりました。次は、そのときの「話し合いの様子の一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

- 【さらなる定着を図るための学習活動例】
- 意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。
 - インタビューなどをして必要な情報を集めたり、それらを発表したりする活動。
 - それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

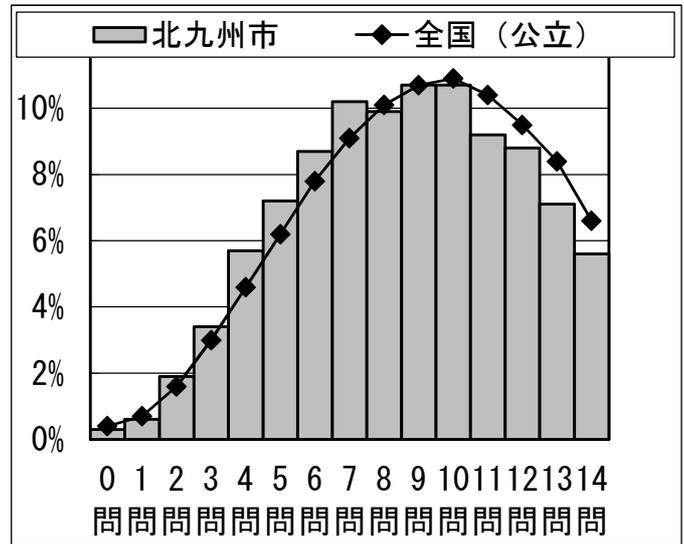
領域・観点・問題形式別平均正答率の状況



- ◇ 「量と測定」の平均正答率の全国との差は-0.7で、全国平均と同程度だった。 < 昨年度：-4.8 >
- ◆ 「数量関係」の平均正答率の全国との差は-3.6で、全国平均を若干下回った。 < 昨年度：-0.9 >
- ◆ 「数量や図形についての技能」の平均正答率の全国との差は-3.7で、全国平均を若干下回った。 < 昨年度：-0.2 >

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。
平成30年度 小学校算数A 正答分布グラフ(横軸：正答数 縦軸：割合)

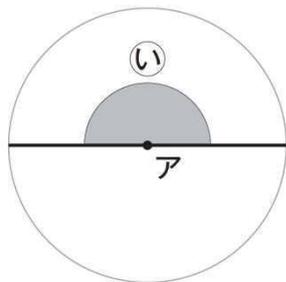


○ 全国は 10問正解の児童の割合が最も多いが、北九州市は 9・10問正解の割合が最も多い状況である。

小学校算数Aで改善が見られた問題

【角の大きさを正しく求める問題】

⑤ (1) 角①の角度は何度ですか。

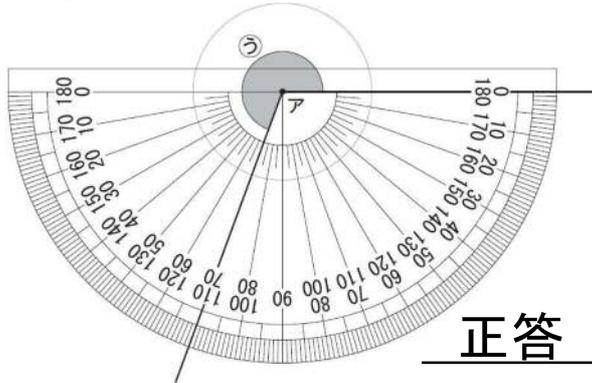


- 1 0°
- 2 90°
- 3 180°
- 4 270°
- 5 360°

正答 3

(1)北九州市正答率	94.0%
全国正答率	94.4%
北九州市無解答率	1.0%
全国無解答率	1.1%

(2) 角②の角度は何度ですか。答えを書きましょう。



正答 250°

(2)北九州市正答率	58.2%	北九州市無解答率	1.2%
全国正答率	58.5%	全国無解答率	1.5%

【参考】H27 A4(2)類題 本市正答率 55.1%

直線が180°であることや、180°をこえる角の大きさの測定の仕方についての理解が進んでいます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

○ 角の形と角の大きさを関連付ける活動を設定しましょう。

・90° ・180° ・270°

○ 角の大きさを測定する前に、およそ何度であるかを予想しましょう。

・0° ~ 90° ・90° ~ 180° ・180° ~ 270° ・270° ~ 360°

小学校算数Aで課題があった問題

【小数の除法の意味について理解しているかどうかをみる問題】

② 答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を、下の 1 から 4 までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1 m の重さが 12 kg の鉄の棒^{ぼう}があります。
この鉄の棒 0.8 m の重さは何 kg ですか。
- 2 0.8 L で板を 12 m² ぬることができるペンキがあります。
このペンキ 1 L では、板を何 m² ぬることができますか。
- 3 赤いテープの長さは 12 cm です。
白いテープの長さは、赤いテープの長さの 0.8 倍です。
白いテープの長さは何 cm ですか。
- 4 長さが 12 m のリボンを 0.8 m ずつ切っていきます。
0.8 m のリボンは何本できますか。

北九州市正答率	37.7%
全国正答率	39.9%
北九州市無解答率	0.8%
全国無解答率	1.0%

正答 2, 4

解答を「1, 4」とする誤答が多く見られました。小数の乗法・除法の意味についての理解が必要です。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

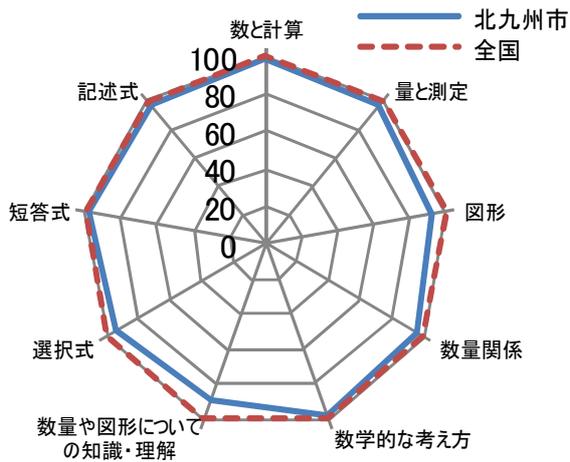
- 「1に当たる大きさを求める際に、除法が用いられること」を理解できるようにすることが大切です。
- 問題文に示された数量について、線分図や数直線、関係図に整理し、「1に当たる大きさ」は何かを説明する活動。
- 第6学年で「比」を学習した後であれば、これらの数量の関係について比を使って整理する活動。

今後の取組の方向性

<基礎的・基本的な内容の確実な定着について>

- 「北九州市学力定着サポートシステム」の「診断問題」を活用し、どの問題に課題があるかを把握しましょう。
「基礎・基本定着問題」「web問題チャレンジシート」等、本市で過去に発行されたプリント等を繰り返し活用し、確実な定着を図ることが大切です。
- その際、公式や用語等の暗記だけにとどまらず、図などに対応させながら用語の意味を理解できるようにすることが大切です。
(例)円周率を求める公式(円周÷直径)の例でいえば、直径の異なる複数の円を示しそれらの「円周」や「直径」はどこか、直径が変わったときに「変わるもの(円周)」と「変わらないもの(円周率)」は何かについて説明する活動を取り入れた授業を行うなど。

領域・観点・問題形式別平均正答率の状況

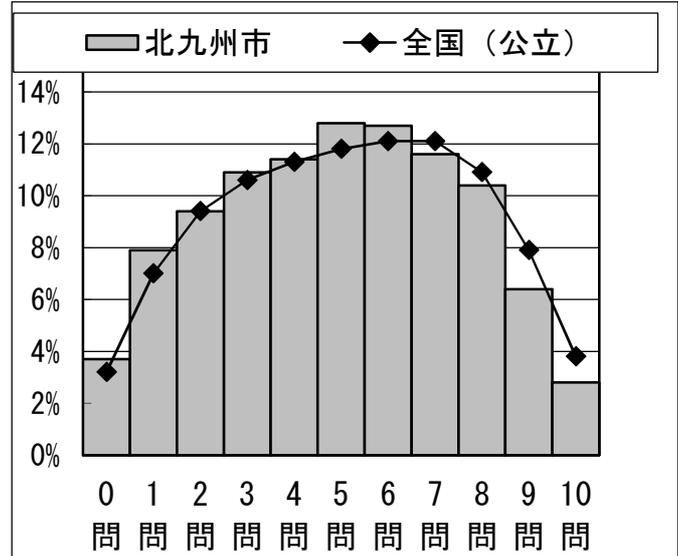


- ◇「数と計算」の平均正答率の全国との差は-1.0で、全国平均と同程度だった。 < 昨年度：-1.4 >
- ◆「図形」の平均正答率の全国との差は-4.5で、全国平均を若干下回った。 < 昨年度：-1.7 >
- ◆「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率の全国との差は-8.3で、全国平均を下回った。 < 昨年度：-3.5 >

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側によった山型である。

平成30年度 小学校算数B 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



○ 全国は 6・7問正解の児童の割合が最も多いが、北九州市は 5問正解の割合が最も多い状況である。

小学校算数Bで成果があった問題

【九九の表のきまりについて、示された考えを解釈し、条件を変更した場合について考察する問題】

④ 九九の表の、横に並んでいる数を選び、選んだ数について話し合いました。

		かける数								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
かけられる数	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	2	2	4	6	8	10	12	14	16	18
	3	3	6	9	12	15	18	21	24	27
	4	4	8	12	16	20	24	28	32	36
	5	5	10	15	20	25	30	35	40	45
	6	6	12	18	24	30	36	42	48	54
	7	7	14	21	28	35	42	49	56	63
	8	8	16	24	32	40	48	56	64	72
	9	9	18	27	36	45	54	63	72	81

はるな

横に並んでいる3つの数「4, 5, 6」の和を求めると、 $4 + 5 + 6 = 15$ です。15は、「4, 5, 6」の真ん中の数5の3倍になっています。

ひるど

横に並んでいる3つの数「18, 21, 24」の和63は、真ん中の数21の3倍になっています。

はるな

それでは、横に並んでいる数が5つの場合は、どのようになるのかな。

ゆうかさんの話を聞いてはるなさんは、次のように説明し直しました。

【はるなさんの説明】

横に並んでいる5つの数「6, 12, 18, 24, 30」の和90は、真ん中の数18の5倍になっています。

今度は、横に並んでいる数が7つの場合について調べ、【はるなさんの説明】と同じように説明します。

(2) 2の段の、横に並んでいる7つの数「4, 6, 8, 10, 12, 14, 16」について【はるなさんの説明】と同じように説明すると、どのようになりますか。言葉と数を使って書きましょう。

正答例

横に並んでいる7つの数「4, 6, 8, 10, 12, 14, 16」の和70は、真ん中の数10の7倍になっています。

北九州市正答率	60.6%	北九州市無解答率	10.4%
全国正答率	59.5%	全国無解答率	11.3%

例示された説明の仕方を参考に、条件を一部変更した場合について、言葉や数、式を適切に使って説明することができつつあります。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

- 幾つかの具体例を調べて共通性を見付ける活動
- 条件を変更しても同じように数量の関係が成り立つのかを考察する活動

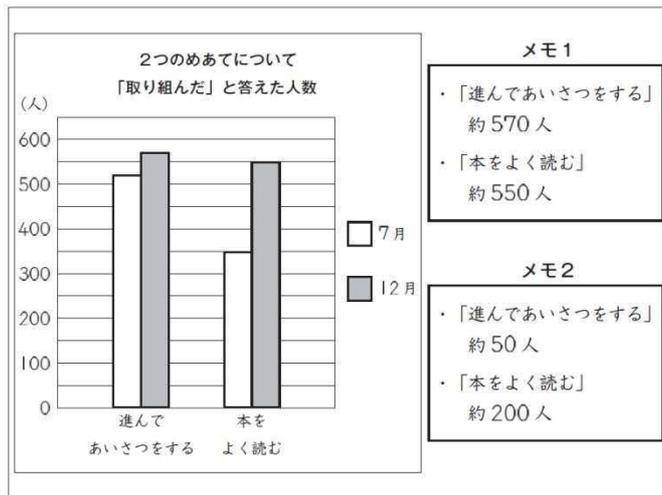
与えられた問題を解くだけでなく、ほかの数量や形、条件等でも、その数量の関係が成り立つのか、なぜその数量の関係が成り立つのかについて考えてみるのが大切です。

小学校算数Bで課題があった問題

【アンケート結果を示した棒グラフと、それについて考察したメモの情報を関連付けて説明する問題】

③

しおりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。
しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。
しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。



えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。



メモ1を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。



メモ1では、「進んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ2では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。



メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書かれています。

(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。

正答例

メモ1は、12月の人数に着目して書かれていて、メモ2は、7月の人数と12月の人数の差に着目して書かれています。

北九州市正答率 17.8%
全国正答率 20.7%

北九州市無解答率 17.7%
全国無解答率 18.0%

メモ1の内容についてのみ説明している誤答が多く見られました。問われていることは何かを正しく把握し、必要な情報を収集し、説明することが必要です。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

資料を分類整理する学習では、次のような活動を行うことが大切です。

- 日常生活の中で主体的に問題を見出して情報を収集する活動。
- 表やグラフなどに整理して表現する活動。
- 考察した結果から新たな問題を見だし、さらに情報を収集し、表やグラフなどに整理し直して考察する活動。

今後の取組の方向性

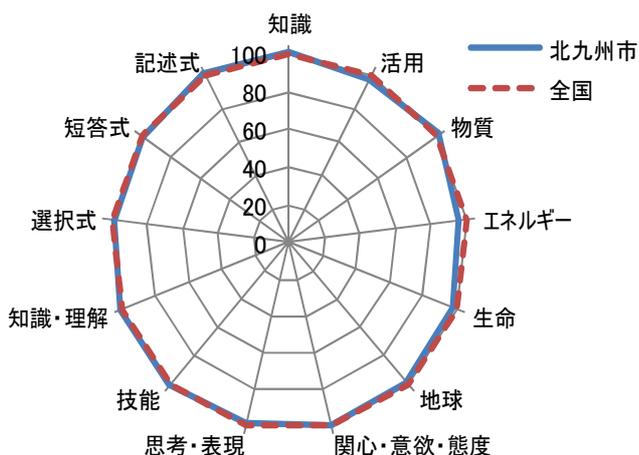
<データの活用について>

- 新学習指導要領では、小学校の新領域として「データの活用」が設けられます。この内容は、中学校でも引き続き、「データの活用」の領域において学習していきます。
- 中学校との学習の円滑な接続を図るためにも、実際に資料を集め、目的を意識して表・グラフを作る活動を充実させ、表やグラフにどんな特徴があるかを理解できるようにすることが大切です。
- 作成後は「目的は何か。」「なぜその表・グラフを選んだか。」「表の項目やグラフの目盛りのとり方は適切か。」等、表やグラフを批判的に考察する活動を取り入れた授業を行いましょう。

<単元末テストの活用について>

- 単元末テストに、思考力・判断力・表現力等を問う問題が掲載されています。テストの問題を解くことができるような力を、授業で意識して育てることが大切です。

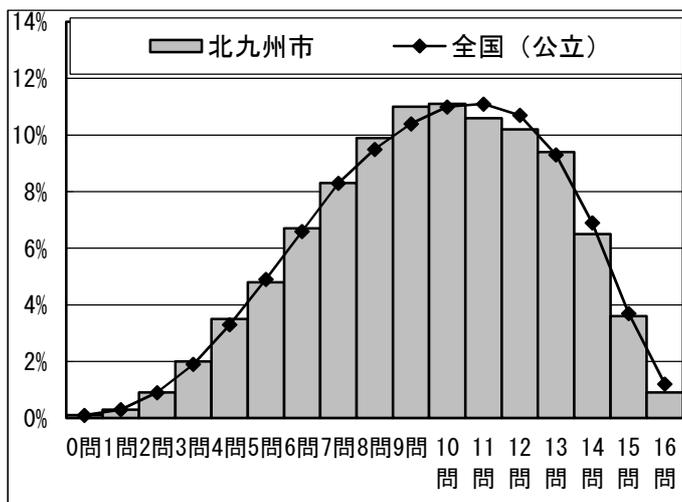
領域・観点・問題形式別平均正答率の状況



- ◇主として「知識」に関する問題の平均正答率の全国との差は+1.0で、全国平均と同程度だった。〈前回：-3.4〉
- ◆「エネルギー」の平均正答率の全国との差は-2.4で、全国平均を若干下回った。〈前回：-3.4〉

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側によった山型である。
平成30年度 小学校理科 正答分布グラフ(横軸：正答数 縦軸：割合)



○ 全国は 11問正解の割合が最も多いが、北九州市は 10問正解の割合が最も多い状況である。

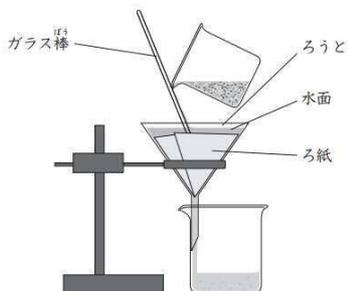
小学校理科で成果があった問題

【ろ過の適切な操作方法を身に付けているかどうかをみる問題】

4

ゆかりさんは、海で見つけた魚を飼育して観察することにしました。

ゆかりさんは、魚を飼育するために、海水を持ち帰りました。しかし、砂などが混じり、にごっていたため、ろ過することにしました。



これでろ過できるね。

ゆかりさん

これでは正しくろ過できていないよ。
ビーカーにたまった海水には、砂が混じっているよ。



まもるさん

北九州市正答率	71.4%	北九州市無解答率	0.4%
全国正答率	71.1%	全国無解答率	0.5%

【参考】類題 H27 3(5)
北九州市正答率 47.5% (全国51.7%)

(1) まもるさんの気づきをもとに、正しく操作し直しているものはどれですか。

1

ろうと
ろ紙

海水がろうとを満たすまで注ぐようにする。

2

ろうと
ろ紙

折ったろ紙の最も下の部分にガラス棒を当てて注ぐようにする。

3

ろ紙
ろうと

折ったときにろうとよりも大きくなるろ紙を使って、折ったろ紙を満たすまで海水を注ぐようにする。

4

ろうと
ろ紙

折ったろ紙の高さをこえないように海水を注ぐようにする。

正答 4

実験技能の理解（ろ過の操作）器具の操作について改善が図られていると考えられます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

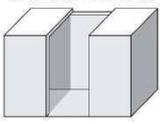
○ 器具の操作は、観察、実験で実際に使用することを通して身に付くものです。理科の授業では、児童一人一人に器具を使用する場面を保障しましょう。また、器具の操作には、どのような意味があるのかを理解できるようにすることを意識して観察、実験を行わせることも大切です。

小学校理科で課題があった問題

【太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できるかどうかをみる問題】

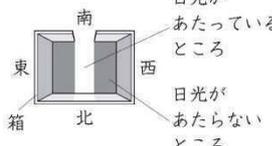
- 3 (4) 午後1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにするには、箱の中で光電池をどのように置けばよいと考えられますか。

光電池を入れる箱

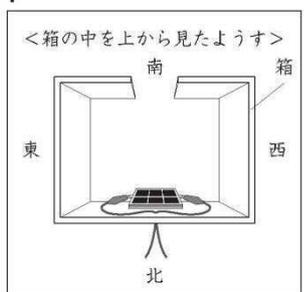


<箱の中を上から見たようす>

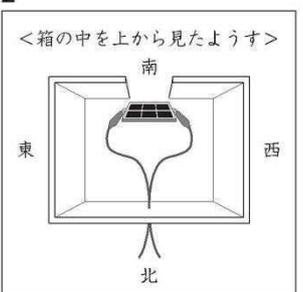
正午に箱の中には、右の図のように日光が差しこみます。



1



2



ひろしさん

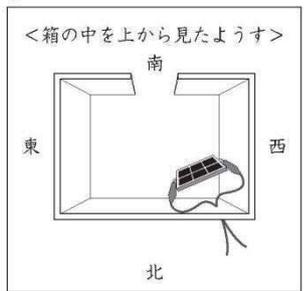
正午だと箱の中に、このように日光が差しこみ、日光が当たっているところと当たらないところができるね。

正答 4

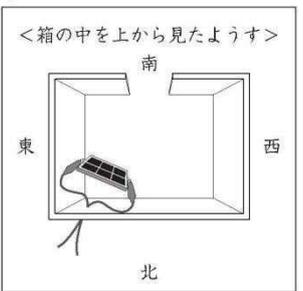
北九州市正答率 37.7%	北九州市無解答率 0.4%
全国正答率 41.9%	全国無解答率 0.6%

【参考】類題 H27 2(5)
北九州市正答率 39.6% (全国44.2%)

3



4



学習を通して獲得した知識をものづくり等へ適用することに課題があると考えられます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

学んだことを基にしたものづくりへの適用ができるようにするには、次の点を意識して授業をしましょう。

- 設定したものづくりの目的に対して必要な知識を明らかにする。
- 知識の適用だけでなく、目的を設定し、計測して制御するという考え方に基づいた学習活動を取り入れる。
- 繰り返し試しながら光電池の置き方を制御するといった場の設定や時間の確保を行うようにする。

今後の取組の方向性

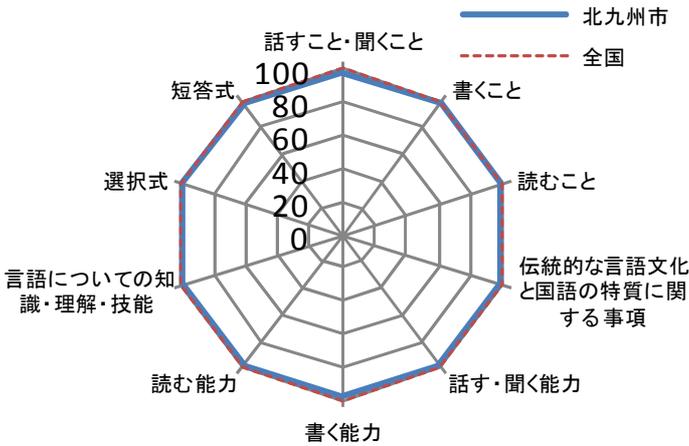
<科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動の充実について>

- 理科に関する知識・技能は、単に身に付けているだけでなく、観察、実験を中心とした問題解決による学習活動や、実際の自然や日常生活などの場面において発揮されることが重要です。観察、実験の結果を整理し考察する学習活動や、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動を意図的・計画的に授業に位置付けるようにしましょう。

<学んだことを基にしたものづくりへの適用について>

- 学んだことを基にしたものづくりへの適用に課題が見られました。ものづくりの授業では、適用しようとする「性質」や「働き」について確認する時間を十分確保するようにしましょう。図や言葉を使って設計図などを作成することを通して、ものづくりで用いた「性質」や「働き」を明らかにすることが大切です。

領域・観点・問題形式別平均正答率の状況

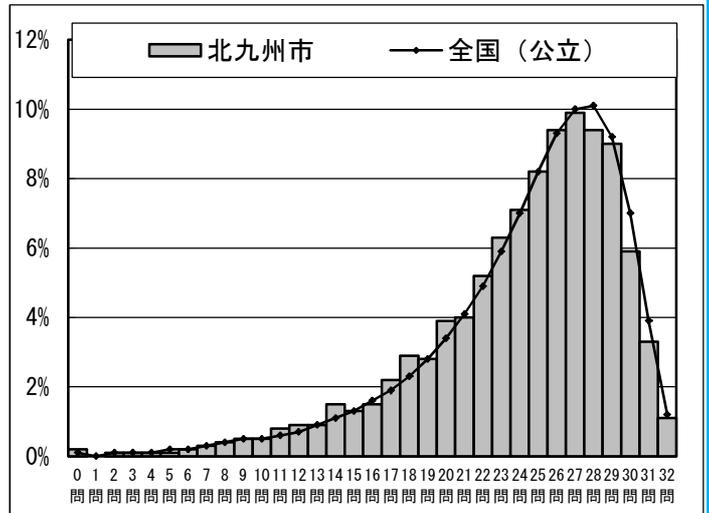


- ◇ 各領域および各観点別の平均正答率の全国との差は、 $-1.2 \sim -0.7$ と、全国平均と同程度だった。
 < 昨年度: $-1.2 \sim -0.4$ >
- ◇ 問題形式別の平均正答率の全国との差は、 $-1.3 \sim -0.9$ と、全国平均と同程度だった。
 < 昨年度: $-1.2 \sim -0.4$ >

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

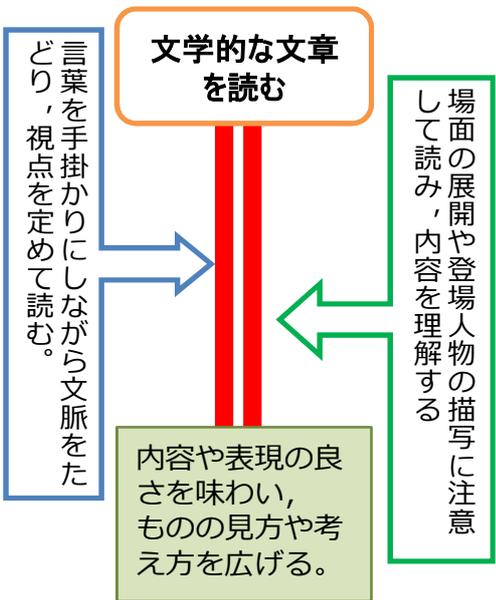
平成30年度 中学校国語A 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



- 全国は 28問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は 27問正解の割合が最も多い状況である。

中学校国語Aで改善が見られた問題

3 【場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる問題】



3 次の文章を読んで、あとの問い答えなさい。

「あの女の子はどうして出ないの？」
 「女の子? どこかに女の子がいるのかい?」
 父は保吉の問いの意味さえ、はっきりわからない様子である。
 「ううん、いはしなくても、顔だけ怒から出したじゃないの?」
 「いつさ?」
 「玩具屋の壁へ映した時に。」
 「あの時も女の子なんぞは出やしないさ。」
 「だって顔を出したのが見えたんだもの。」
 「何を言っている?」
 父はなんと思ったか保吉の顔へ手のひらをやった。それから急に保吉にもつけ景気とわかる大声を出した。
 ⑤「さあ、今度は何を映そう?」
 けれども保吉は耳にもかけず、ヴェネチアの風景をながめつづけた。窓は薄明るい水路の水に静かな聲がけ
 二 ―線部②『さあ、今度は何を映そう?』けれども保吉は耳にもかけず、ヴェネチアの風景をながめつづけた。とありますが、この場面についての説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 父は保吉に幻灯を映すように促したが、保吉はヴェネチアの静かな風景がとても気に入ったので父の発言に答えずにいる。
- 2 父はヴェネチアの風景の映り具合を気にしたが、保吉は自分が愛する浅草や銀座の風景の映り具合を気にしている。
- 3 父は他の画を映し出すことを提案したが、保吉は少女がもう一度幻灯の画に現れるのではないかと考えている。
- 4 父は少女が映っている画が他にもないか探そうとしたが、保吉は少女が再び現れることはないかと諦めている。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

<登場人物の相互関係を捉える工夫>

- 文章の中の時間的・空間的な場面の展開や登場人物の心情や行動、情景描写に注意して読み、登場人物の言動の意味について考える活動を行きましょう。

正答

3

場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、作品の内容を理解する力が身に付いてきています。

北九州市正答率	81.9%
全国正答率	82.8%
北九州市無解答率	0.3%
全国無解答率	0.2%

【参考】H27 A6
 北九州市正答率 66.9%

中学校国語Aで課題があった問題

8

【目的に応じて文の成分の順序や照応，構成を考えて適切な文を書くことができるかどうかをみる問題】

正答例

私はスポーツ選手の努力する姿に
(心を打たれた。)

誤答例

- ・私はスポーツ選手に(心を打たれた。)
- ・努力していることに私は(心を打たれた。)
- ・スポーツ選手の努力する姿に(心を打たれた。)

※誰が

誰の何の

どのように

【問われている力】
○文の成分(主語・述語・修飾語・接続語・独立語)の順序や照応の理解。
○文の構成を考えて書く力。

四 次の問いに答えなさい。
お、
2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。な
「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心をうたれた」のかわかるように書くこと。

心を打たれた。

【誤答を生み出した理由】
述語「心を打たれた」に対して主語「誰が」が明記されていない。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

- 〈文の構成などについて考えるための指導の工夫〉
- 語順や語の照応によって表現がどのように変わるかについて、様々な文型から考える活動を行いましょう。
- その際、一対一の双方向の立場だけでなく、間接的な立場に立って相手に伝える意識をもたせる指導を行うことが大切です。

H27小国 A 2 文中における主語を捉えることに課題を受けての出題

北九州市正答率	17.3%	北九州市無解答率	7.6%
全国正答率	22.3%	全国無解答率	6.5%

文の中における主語を捉えたり、主語を明示しながら適切に表現したりすることに課題があります。

今後の取組の方向性

＜小中連携の視点に立った体系的・継続的な指導について＞

- 文の構成については、発達段階に応じた力をそれぞれ身に付ける(文の中における主語と述語との関係に注意する。修飾・被修飾の関係など文の構成を知る。文章の中での語句と語句との関係を理解する。中学校では小学校での学習を生かして、文の成分の順序や照応、文の構成などについて考える)ことが大切です。学習に入る前に定着度の確認などを行い、体系的・継続的な指導を図りましょう。

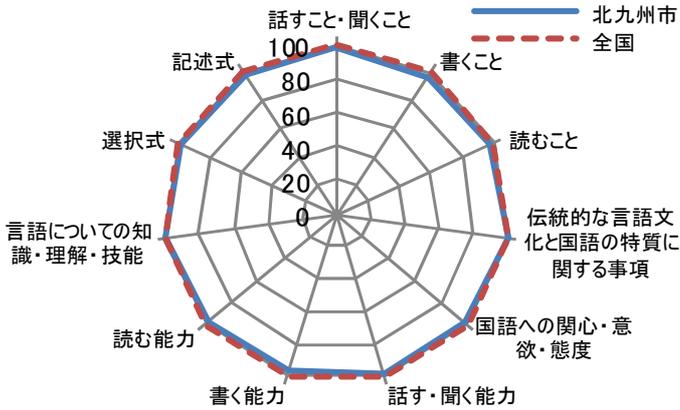
＜実際の読書活動や言語活動において適切に言葉を使い分ける力の育成について＞

- 一対一の双方向の対話だけでなく、第三者(多数)に対して(もしくは第三者の立場に立って)話す・書く場面を設定し、他者意識をもたせて文を構成する場面を作りましょう。作った文を周りと共有し、それぞれの立場から意見を出し合い、相手に分かりやすく伝えることを意識づけていきましょう。

＜北九州市学力定着サポートシステムの活用について＞

- 思考力等の育成においては、「何を理解しているか(知識・技能の習得)」が重要です。「北九州市 学力定着サポートシステム」の「基礎・基本定着問題」「診断問題」を活用し、言語に関する知識・理解・技能の定着を図りましょう。

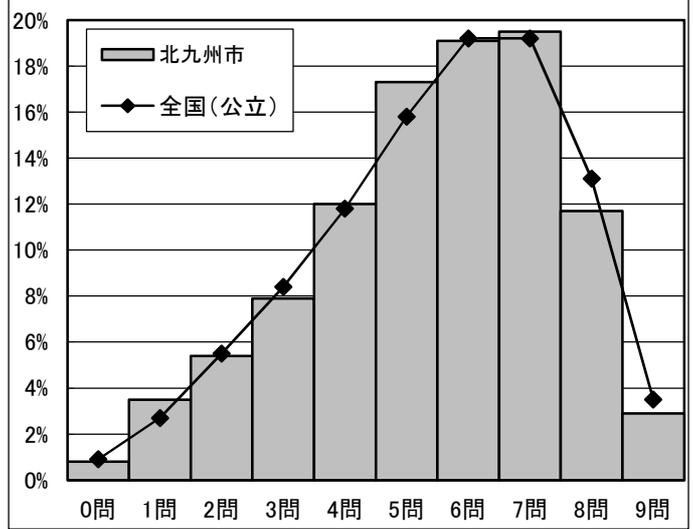
領域・観点・問題形式別平均正答率の状況



- ◇ 問題形式別の平均正答率の全国との差は、-1.0 ~ -0.9 と、全国平均と同程度である。〈昨年度：-3.0 ~ -1.0〉
- ◇ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」及び「言語についての知識・理解・技能」の領域・観点における平均正答率の全国との差は、-0.2と、全国平均と同程度である。〈昨年度-7.1〉

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。
平成30年度 中学校国語B 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



○ 北九州市は、7問正解の割合が最も多く、全国は6問と7問の正解の割合が最も多い状況である。

中学校国語Bで改善が見られた問題

2 【質問の意図を捉えることができるかどうかをみる問題】

- 1 南さんは事前にもっていた疑問を解決するために質問している。
 - 2 大野さんは説明を聞いて生じた疑問を解決するために質問している。
 - 3 大野さんは山川さんの説明を聞いて生じた疑問を指摘するために質問している。
 - 4 大野さんは山川さんの説明の要点を確かめるために質問している。
- 一「発表・質問の場面の一部」の南さんと大野さんの質問の意図として最も最適なものを、次の1〜4までの中から一つ選びなさい。

正答

2

各教科における言語活動の更なる充実を目指すものとなることを求めている。

事前にもっていた疑問を解決するための質問

説明を聞いて生じた疑問を解決するための質問

北九州市正答率 85.8% 北九州市無解答率 0.2%
全国正答率 86.8% 全国無解答率 0.2%

【参考】
H26類題 A1二 本市正答率 76.0% (全国80.3%)
H27類題 A8一 本市正答率 81.7% (全国84.6%)

話の内容と自分の考えを比較し、必要に応じて不明な部分や更に聞きたい事柄について質問する力が身に付いてきています。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問したり、聞き手とのやりとりを踏まえながら、話の全体として伝えたいことを明確にして話したりする活動を行いましょう。

中学校国語Bで課題があった問題

1 【目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができるかどうかをみる問題】

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【広辞苑 第6版】(平成20年・岩波書店)
てんちーむよう「天地無用」荷物、寶
【日本国語大辞典 第2版】(平成12〜14)
てんちーむよう「天地無用」荷物、寶
いけないという意味の注意。

中略

接続詞「また」があるので、もう一つ理由があることがわかる。

①「無用」と言う言葉が使われなくなり、「してはならない」と言う意味での使い方が分かっていくくなっている。

②「天地無用」には「逆にする」に当たたる内容が省略されていることに気付かないと、「してはならないこと」以外の意味で捉えてしまう。

三 この文章を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

理由となる部分を探す。
(今回は理由が二つあるので、両方に着眼しないといけません)

複数ある場合があるので、段落の始めの指示語や接続語などに着目して読む。

文章中の言葉を使って自分の考えを書く。

正答例
現在は、「してはならないこと」という意味を表す際に、「無用」以外の言葉を使うことが多く、「無用」という言葉に「してはならないこと」という意味があることが分かっていくくなっているのかもしれないから。また、「天地無用」は「逆にすること」に当たたる内容が省略された言い方になっていて、それに気付かないと「無用」を他の意味で捉えかねないから。

北九州市正答率	11.5%	北九州市無解答率	7.2%
全国正答率	13.3%	全国無解答率	7.0%

文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け文章の構成や展開を捉えて内容を理解することに課題があります。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

<適切な情報を得て、考えをまとめるための活動の充実>

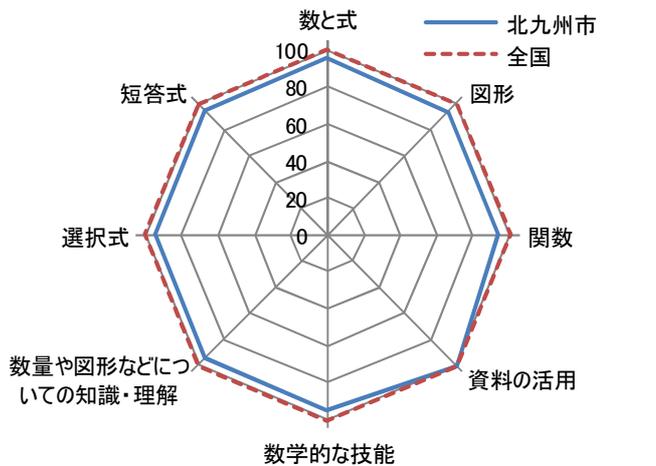
- 段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、更に大きなまとまりが、文章全体でどのような役割を担っているかを捉える活動
- 文章や図表などとの関連を捉えたり、書き手の意図やその効果について考えたりする活動

今後の取組の方向性

<文章の構成や展開の工夫とその効果を考える力、目的に応じて文章の内容を適切に捉えて書く力の育成について>

- 文章の中の中心的部分、または付加的部分や事実と意見などを読み分け(図表がある場合は、図表がどの部分と関連しているのかを捉えて)、内容を的確に捉える力を高めていきましょう。
- 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現する内容にふさわしい語句を選んで描写を工夫したりして書くことを意識させましょう。

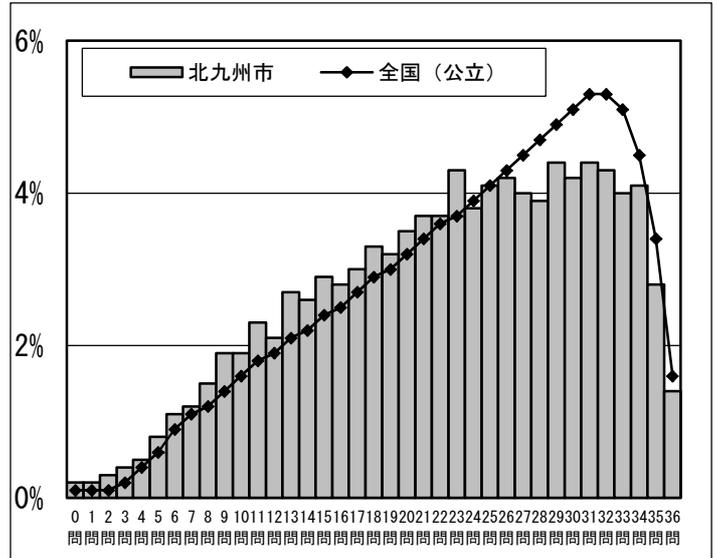
領域・観点・問題形式別平均正答率の状況



- ◇ 「資料の活用」の領域の平均正答率の全国との差は0.0で、全国平均と同等だった。 < 昨年度：-1.6 >
- ◆ 「数学的な技能」の観点の平均正答率の全国との差は-3.5で、全国平均を若干下回った。 < 昨年度：-3.3 >
- ◆ 「短答式」の平均正答率の全国との差は-3.9で、全国平均を若干下回った。 < 昨年度：-2.8 >

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側によった山型である。
平成30年度 中学校数学A 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

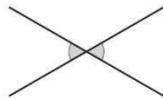


- 全国は31・32問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は29問正解の割合が最も多い状況である。

中学校数学Aで改善が見られた問題

【証明の必要性と意味を理解しているかどうかをみる問題】

8 ある学級で、「対頂角は等しい」ことの証明について、次の①、②を比べて考えています。

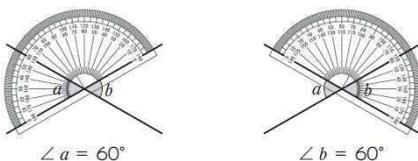


① 下の図のように、対頂角 $\angle a$ と $\angle b$ について、



$\angle a + \angle c = 180^\circ$ から、 $\angle a = 180^\circ - \angle c$
 $\angle b + \angle c = 180^\circ$ から、 $\angle b = 180^\circ - \angle c$
 よって、 $\angle a = \angle b$
 したがって、対頂角は等しい。

② 下の図のように、対頂角 $\angle a$ と $\angle b$ について、 $\angle a$ と $\angle b$ の大きさをそれぞれ測ると、



また、2つの直線の交わる角度を変えて、同じように測ると、
 $\angle a = 40^\circ$ のとき $\angle b = 40^\circ$
 $\angle a = 90^\circ$ のとき $\angle b = 90^\circ$
 $\angle a = 110^\circ$ のとき $\angle b = 110^\circ$
 よって、 $\angle a = \angle b$
 したがって、対頂角は等しい。

①、②がそれぞれ「対頂角は等しい」ことを証明できているかどうかについて、正しく述べたものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア ①も②も証明できている。
- イ ①は証明できているが、②は証明できていない。
- ウ ①は証明できていないが、②は証明できている。
- エ ①も②も証明できていない。

正答 イ

北九州市正答率 38.1% 北九州市無解答率 0.8%
 全国正答率 45.5% 全国無解答率 0.6%

【参考】H27 8 同一問題
 北九州市正答率 24.0% (全国25.8%)

演繹的に考えることによって導かれた事柄は常に成り立つことの理解が進んでいます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

具体的な値を用いて帰納的に考える活動を通じて、「すべての場合に必ず成り立つといえるか」ということを考えさせることが大切です。

そこから演繹的に考えることのよさを実感させ、証明の必要性と意味を理解することにつなげていく活動を設定しましょう。

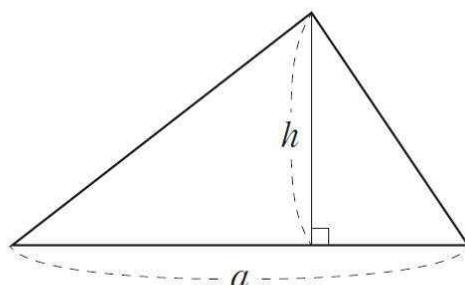
中学校数学Aで課題があった問題

【等式を目的に応じて変形できるかどうかをみる問題】

2

(4) 右の図で、底辺の長さ a 、高さ h の三角形の面積 S は、次のように表されます。

$$S = \frac{1}{2} ah$$



底辺の長さを求めるために、この式を、 a について解きなさい。

北九州市正答率	39.3%	北九州市無解答率	17.9%
全国正答率	48.2%	全国無解答率	15.3%

正答 $(a=) \frac{2S}{h}$

解答類型では $\frac{1}{2} sh$ のように、単純に a と s を入れかえたと考えられる誤答や、 $\frac{s}{h}$ のように文字にだけ着目して変形したと考えられる誤答が見られました。これは、与えられた式の意味を読みとることや、等式の性質を理解することが定着できていないと考えられます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

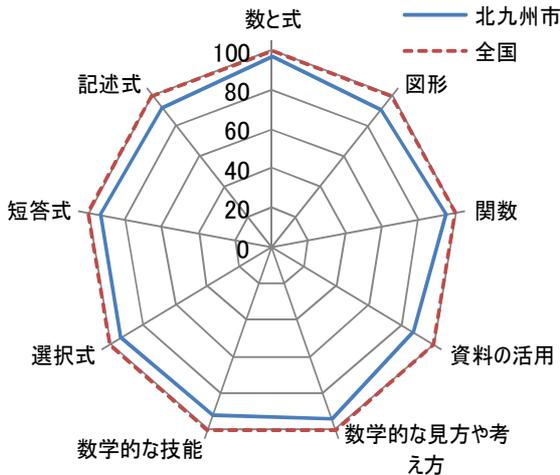
具体的な事象の中にある数量の関係に着目させ、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、等式の性質を用いた等式の変形を形式的に行うだけでなく、この問題のように三角形の面積を求める公式を底辺の長さについての式に変形するなど、具体的な場面で目的に応じて式を変形することに重点をおき、式を利用することのよさを実感できるようにすることが大切です。

今後の取組の方向性

<数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力について>

- 数量の関係を文字式を用いて表現することだけでなく、表現された文字式がどのような関係を表しているかを考えて説明させる場面を設定しましょう。
- 2つ以上の文字を含む等式の変形では、式を変形する目的を明確にして、分配法則や等式の性質などの既習事項を根拠にすることを意識させるようにしましょう。

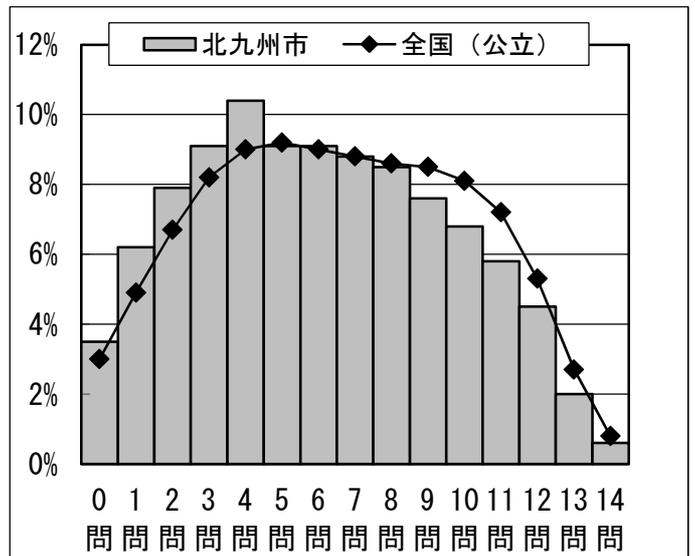
領域・観点・問題形式別平均正答率の状況



- ◇「数と式」の領域の平均正答率の全国との差は -1.5 で、全国平均と同程度だった。
 < 昨年度 : -4.1 >
- ◆「数学的な技能」の観点の平均正答率の全国との差は -4.3 で、全国平均を若干下回った。< 昨年度 : -6.7 >
- ◆「選択式」の平均正答率の全国との差は -4.0 で、全国平均を若干下回った。< 昨年度 : -0.8 >

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側に集中した山型である。
 平成30年度 中学校数学B 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

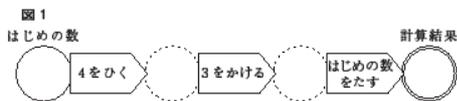


○ 全国は5問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は4問正解の割合が最も多い状況である。

中学校数学Bで成果があった問題

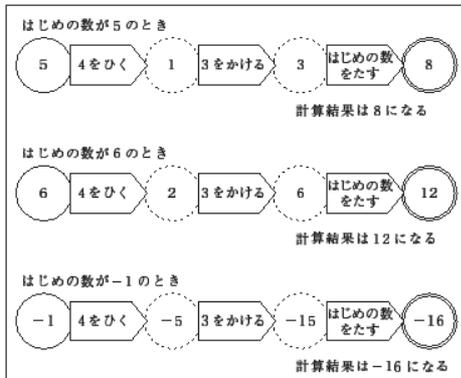
【計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める問題】

② 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。



海斗さんは、はじめの数として○にいろいろな整数を入れて計算しています。例えば、はじめの数が5、6、-1のときは、それぞれ下のような計算になります。

計算の例



(3) 海斗さんは、5ページの図1の「4をひく」、「3をかける」、「はじめの数をたす」の順番を入れ替えたとき、計算結果がどうなるかを考えています。次の図2のように「4をひく」、「はじめの数をたす」、「3をかける」の順番にすると、計算結果は6の倍数になることがわかりました。

図2



あなたも計算の順番を入れ替えてみて、その計算結果が何の倍数になるかを調べ、次のようにまとめましょう。

上の ① の順番にすると、計算結果は ② の倍数になる。

上の ① には、計算の順番をどのように入れ替えるかを、下のア、イの中から1つ選びなさい。また、そのときの計算結果は何の倍数になりますか。
 ② に当てはまる2以上の整数を書きなさい。ア、イのどちらを選んでもかまいません。

ア 「3をかける」、「4をひく」、「はじめの数をたす」

イ 「はじめの数をたす」、「3をかける」、「4をひく」

正答 アを選択して、4、2のいずれかを解答している
 イを選択して、2と解答している

北九州市正答率 67.4% 北九州市無解答率 0.8%
 全国正答率 68.3% 全国無解答率 1.1%

条件が変わったときの計算結果を数学的に表現することの理解が進んでいます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

帰納的に調べることで成り立つと予想される事柄を見だし、それを演繹的に推論することで、成り立つ事柄を数学的に表現できるようにすることが大切です。

授業では、すでに解決した問題に関連付けて理解して、説明する話し合い活動や、「まとめ」で分かったことをノートに書く活動を設定しましょう。

中学校数学Bで課題があった問題

【S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く問題】

- 5 里奈さんは、バスツアーを利用して旅行することにしました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

里奈さんが作った表

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人 3500円	1人 3200円
団体料金	1人 2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 里奈さんが作った表から、S社の場合、団体料金は通常料金の560円引きであることがわかります。この560円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書きなさい。ただし、実際に何%にあたるかを求める必要はありません。

北九州市正答率 11.2% 北九州市無解答率 25.7%
 全国正答率 16.0% 全国無解答率 24.1%

正答 $560/3500 \times 100$

解答類型では、 $560/3500$ という誤答が多く見られました。これは通常料金の3500円を基準量、値引き額の560円を比較量として、割合を求めるための式を書くことはできたが、百分率で表現することができていないと考えられます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

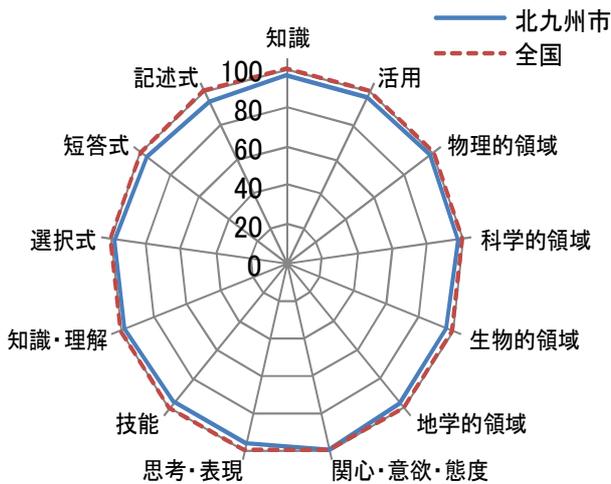
小学5年生で、1単位当たりの割合が0.75のときの百分率が75%であることを学習しています。中学1年生の方程式では、3500円が100%であるとき、560円をx%として、比例式を活用することで、百分率と意味と比例式の有用性を実感することができると思います。

今後の取組の方向性

<式の意味やよさを実感するための話し合い活動と書く活動について>

- 方程式等を活用して問題を解決する技能を高めるとともに、授業では話し合い活動を通して式の意味やよさを実感できる工夫をしましょう。話し合い活動の前の書く活動を通して自分の考えを持ち、話し合ったことを「記録」「整理」して、思考を深めるために、「まとめ」「振り返り」による書く活動を行いましょう。
- 定期考査においても、式の意味やよさを説明するなど、思考力・判断力・表現力等を問う問題を出題しましょう。

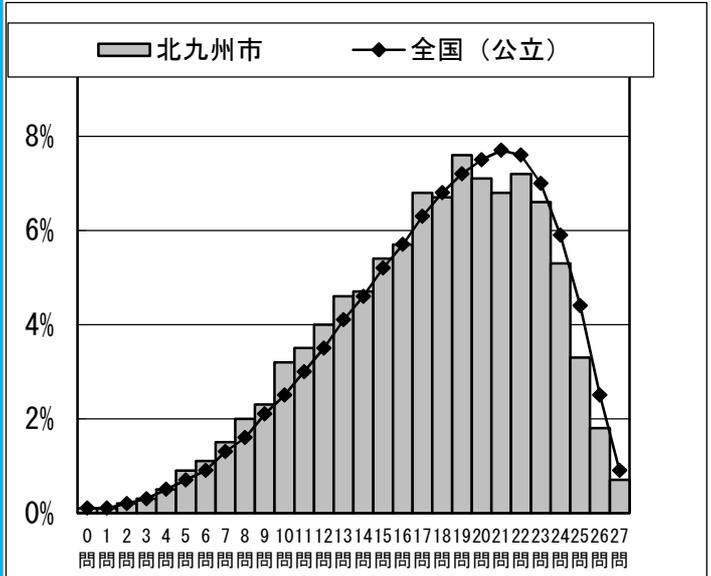
領域・観点・問題形式別平均正答率の状況



- ◇ 「物理的領域」の平均正答率の全国との差は-1.5で、全国平均と同程度だった。 < 前回：-3.3 >
- ◇ 「自然事象についての知識・理解」の平均正答率の全国との差は-2.0で、全国平均と同程度だった。 < 前回：-2.7 >
- ◆ 「記述式」の平均正答率の全国との差は-3.0で、全国平均を若干下回った。 < 前回：-3.3 >

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。
平成30年度 中学校理科 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



○ 全国は21問正解の生徒の割合が最も多いが、北九州市は19問正解の割合が最も多い状況である。

中学校理科で改善が見られた問題

6 【オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができるかどうかをみる問題】

黒板の続き

【結果】

表1 豆電球

電圧 (V)	0.0	1.5	3.0
電流 (A)	0.00	0.42	0.60
電力 (W)	0.00	0.63	1.80
点灯の様子	点灯しない	暗い	明るい
			

表2 豆電球型のLED

電圧 (V)	0.0	1.5	3.0
電流 (A)	0.00	0.07	0.14
電力 (W)	0.00	0.08	0.42
点灯の様子	点灯しない	明るい	非常に明るい
			

適切な電流の値を読み取った上で、オームの法則を使って豆電球の抵抗の大きさを求めます。

**正答 電流:0.60A
抵抗:5Ω**

(2) 豆電球に3.0Vの電圧を加えたときの回路に流れる電流を、表1から求めなさい。
また、このときの豆電球の抵抗の大きさは何Ωですか。

北九州市正答率	51.9%	北九州市無解答率	14.3%
全国正答率	51.9%	全国無解答率	14.6%

【参考】H27類題 5(1)
北九州市正答率 54.4% (全国59.6%)

前回調査と比較し、オームの法則を使って抵抗の大きさを求めることに改善が見られます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】

観察・実験の結果を整理して、表やグラフに表し、必要なデータを読み取ったり、規則性を見いだしたりする活動を繰り返し設定しましょう。

中学校理科で課題があった問題

4 【条件制御の知識・技能を活用して、実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘することができるかをみる問題】

レポート

課題
ガスバーナーの空気の量を変えて、炎の色と金網につくスス（炭素）の量を調べよう。

実験
表1のように、変える条件と変えない条件を決めて、炎の色と金網につくススの量を調べる。

表1

変える条件	空気の量
変えない条件	ガスの量, <input type="text" value="X"/> ,

結果

課題解決や実験の目的に正対した「変えない条件」を考えます。

正答例
金網の位置 など

(2) 表1の に適する変えない条件がいくつかあります。変えない条件を1つ書きなさい。

北九州市正答率	41.8%	北九州市無解答率	16.5%
全国正答率	44.1%	全国無解答率	15.5%

実験の目的に応じた条件を指摘し、条件制御の知識・技能を活用することに課題が見られます。

【さらなる定着を図るための学習活動例】
 <課題を解決するための実験を計画する学習場面を授業に取り入れる>
 ○ 実験を計画する際には、自然の事物・現象に含まれる要因を洗い出し、それぞれの要因を変える条件と変えない条件に整理して、適切に条件を制御することが大切です。

今後の取組の方向性

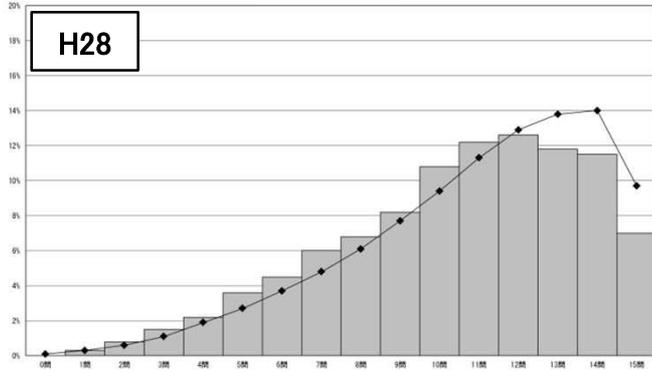
- <理科の学習と日常生活や社会とのつながりについて>
- 今回の調査では、理科の学習が科学技術に応用されている例(テレプロンプター, 発熱パック, 緊急地震速報)や日常生活において知識・技能を活用する問題(アサリの塩出し, 刺激に対する反応, LEDと豆電球)が多く出題されています。理科の学習内容と科学技術, 日常生活や社会とのつながりを意識した授業改善が求められています。
- <考察の改善, 新たな疑問の設定について>
- 「考察の改善」や「新たな疑問」の設定について問う問題が増えています。日常の授業においては、見通しをもった観察・実験を行い、探究の過程を振り返る活動を取り入れていきましょう。

(5) 正答数分布グラフの経年比較 ①小学校国語科

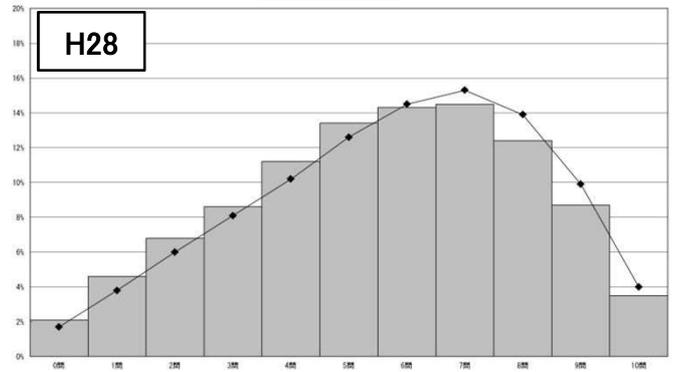
北九州市立小学校
全国（公立）

小学校国語では、低位層が減少し、高位層が増加している。分布図も全国平均に近づいている。

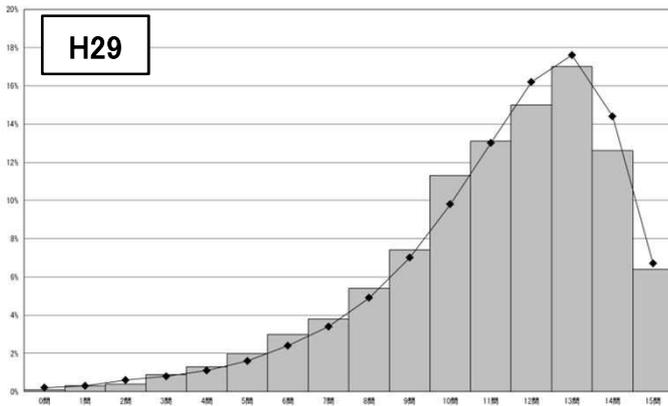
小国A



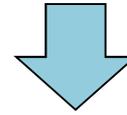
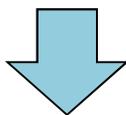
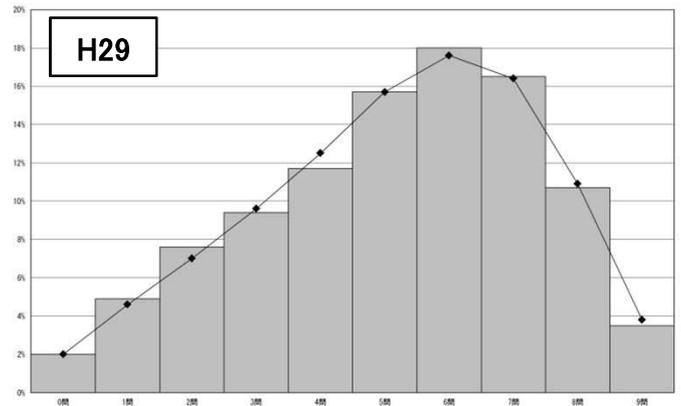
小国B



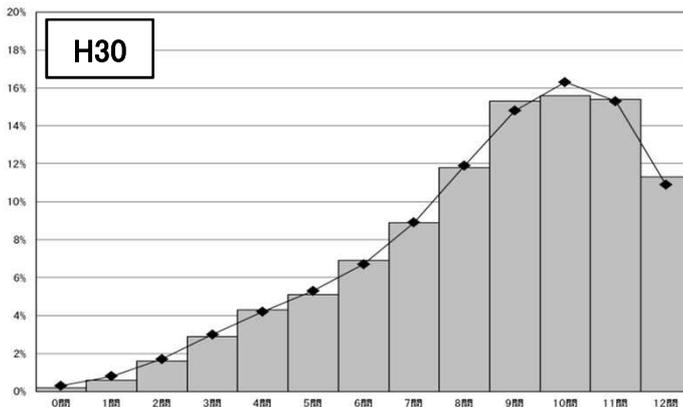
H29



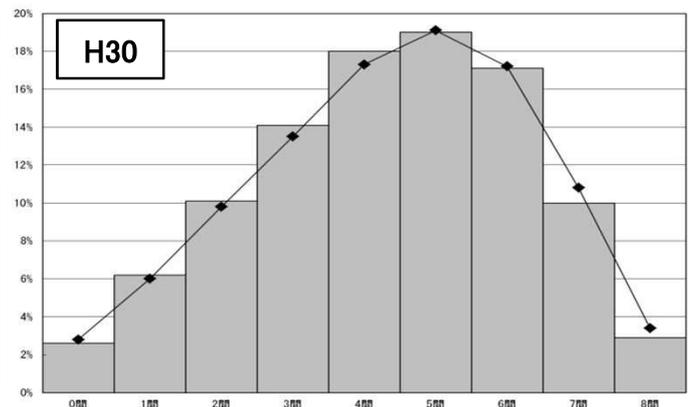
H29



H30



H30

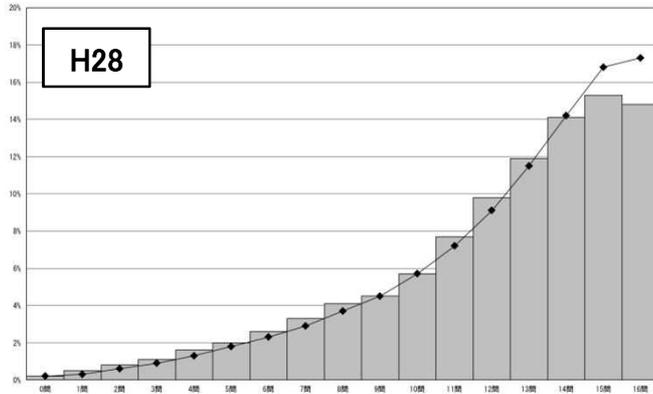


②小学校算数教科

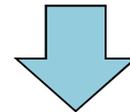
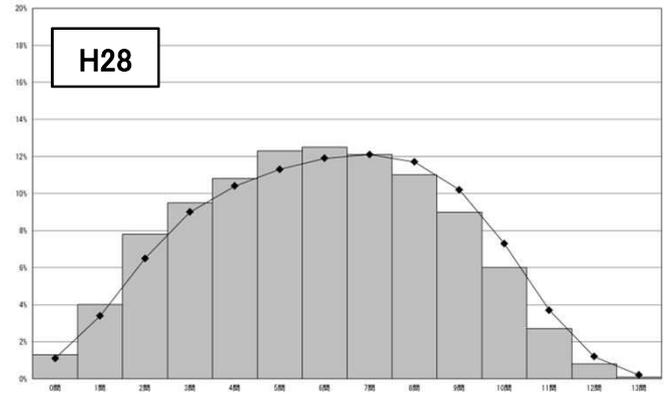
北九州市立小学校
 全国（公立）

小学校算数では、低・中位層が全国平均に比べて多い。

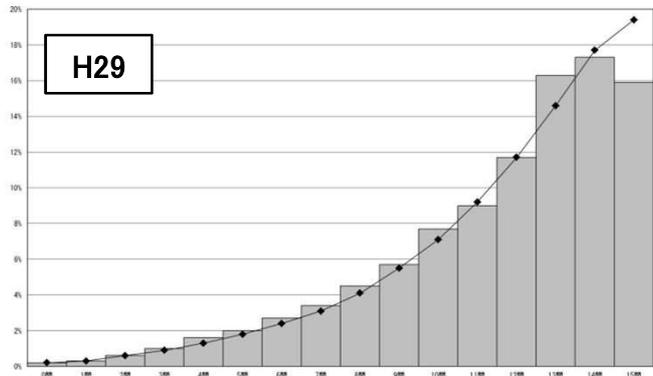
小算A



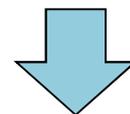
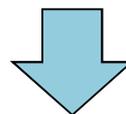
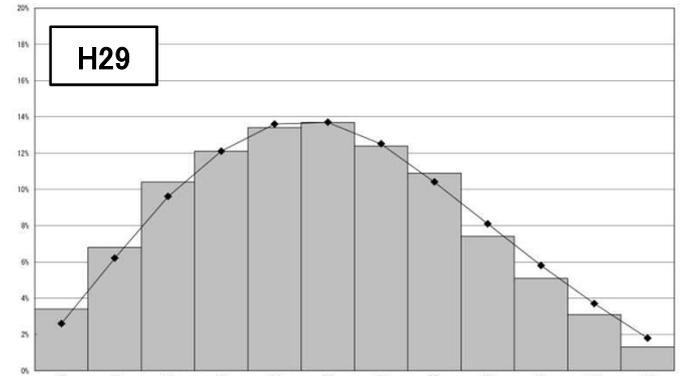
小算B



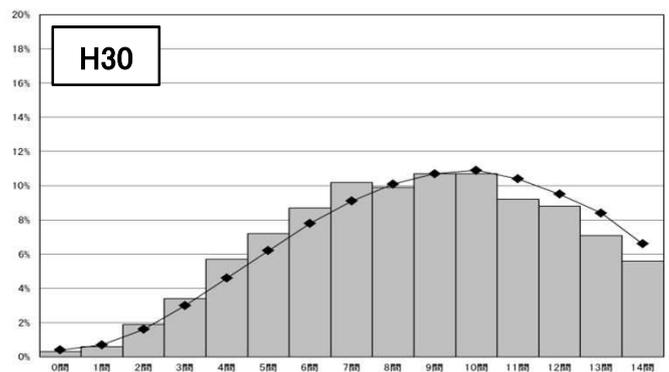
H29



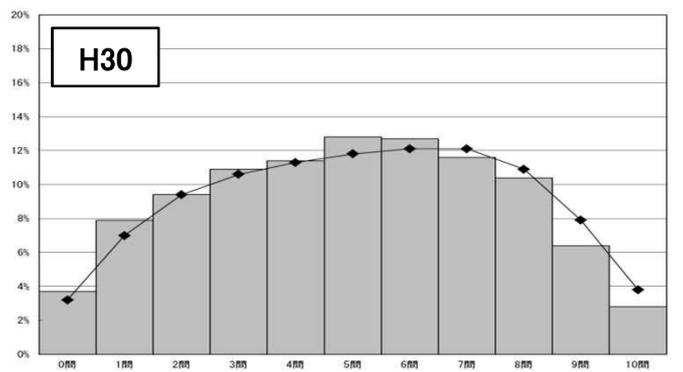
H29



H30



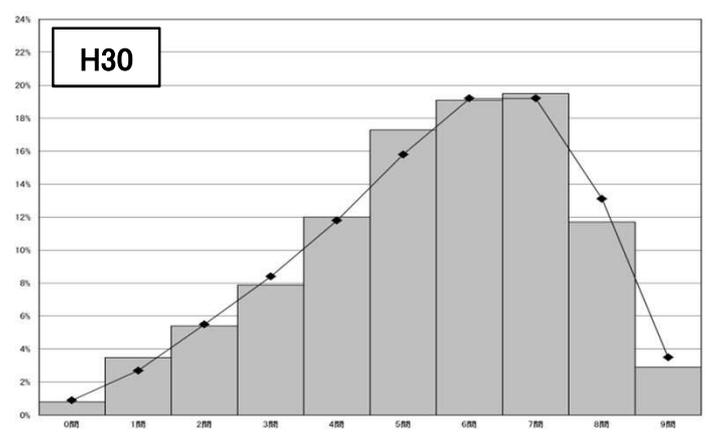
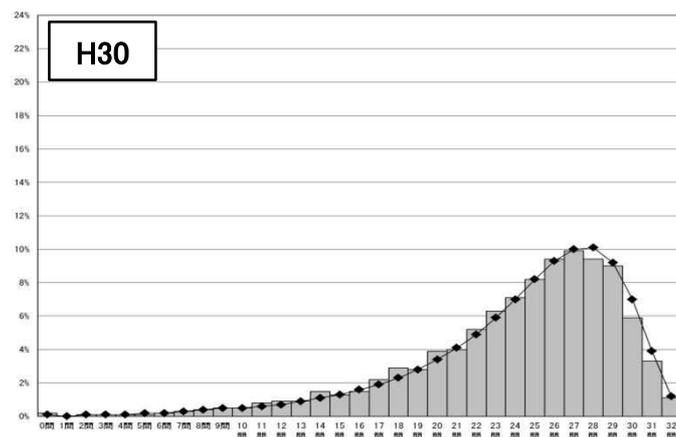
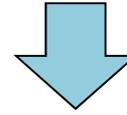
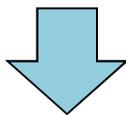
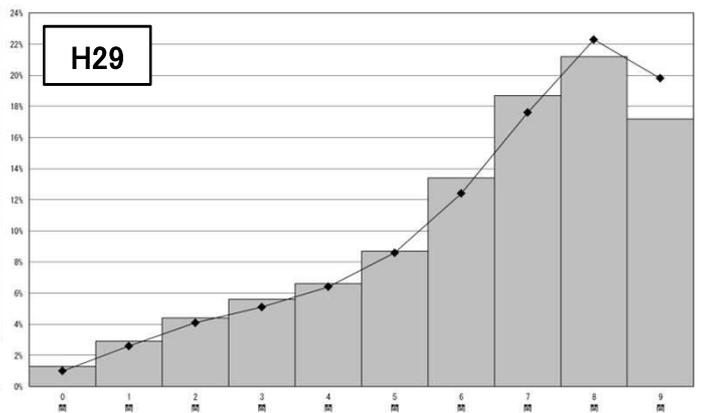
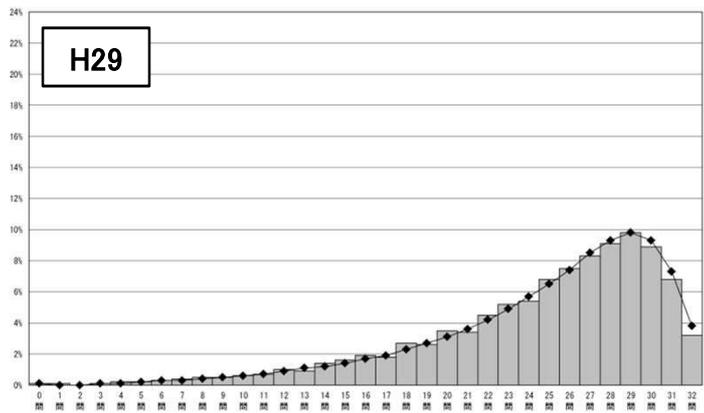
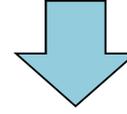
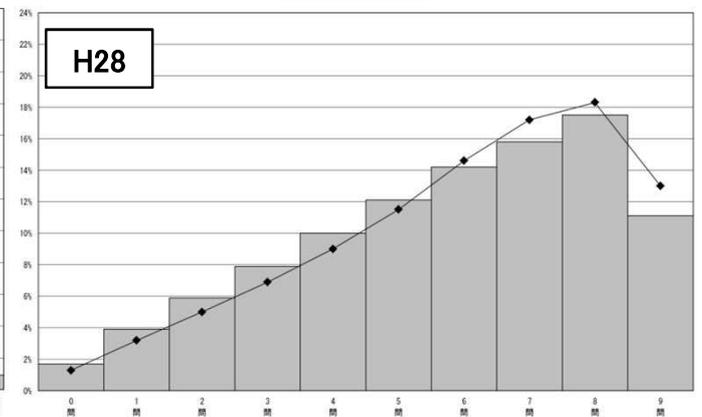
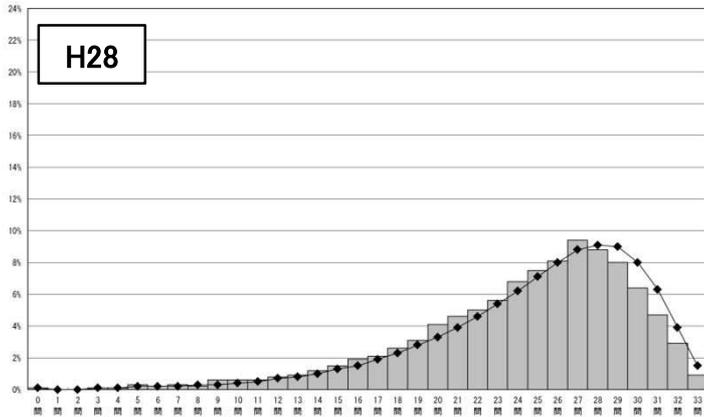
H30



中学校国語では、低位層が減少し、高位層が増加している。分布図も全国平均に近づいている。

中国A

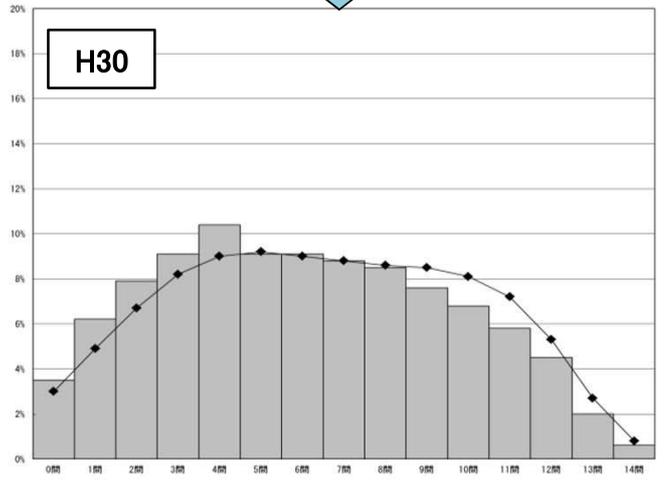
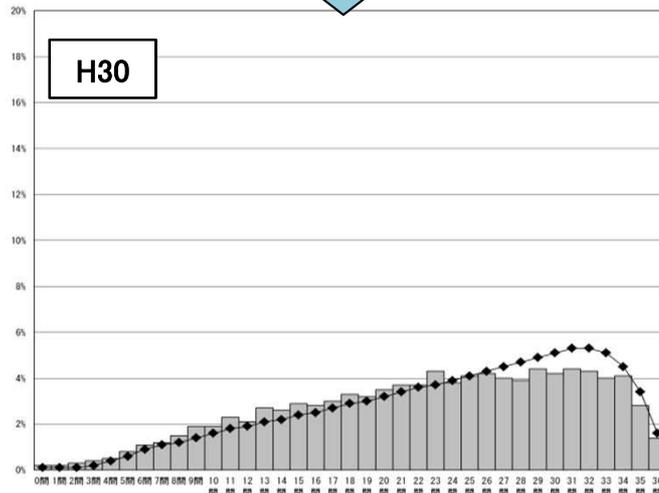
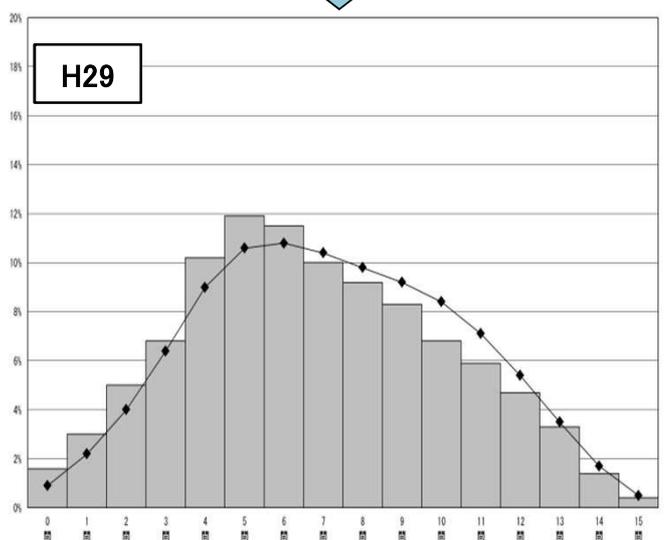
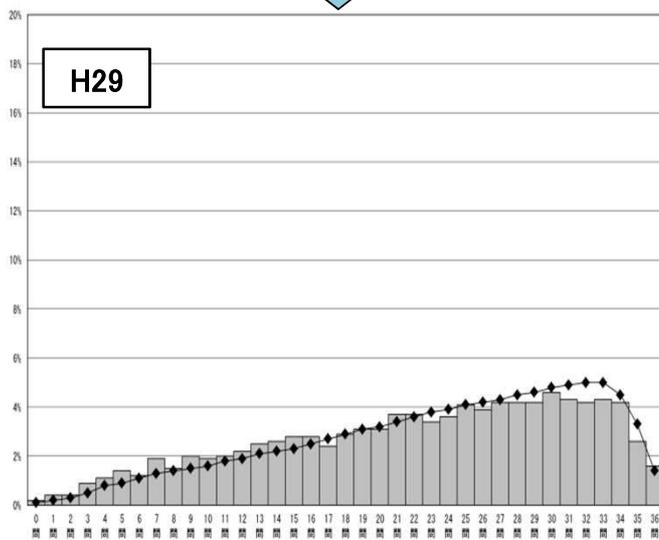
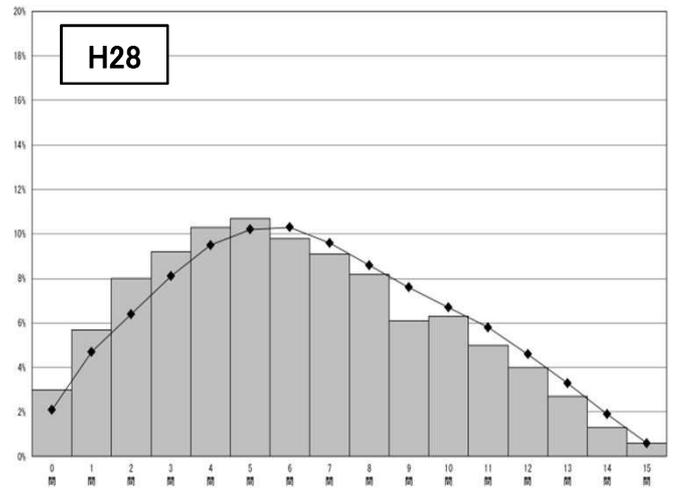
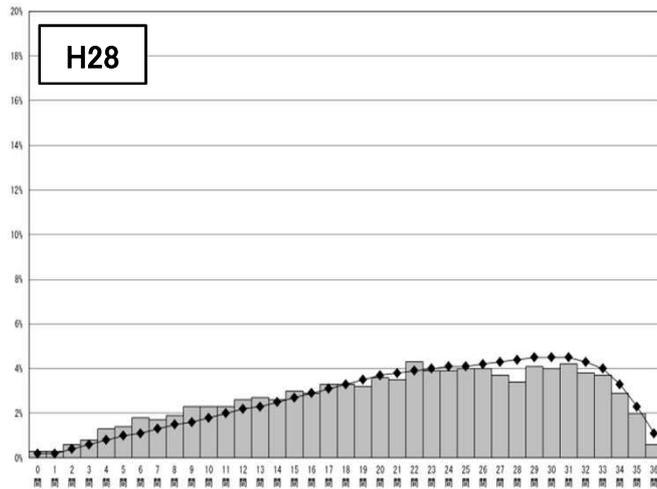
中国B



中学校数学では、低・中位層が全国平均に比べて多い。

中数A

中数B

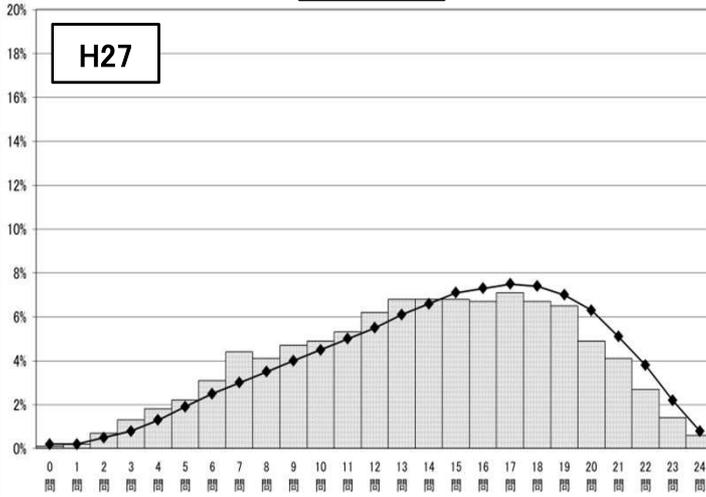


⑤小・中学校理科

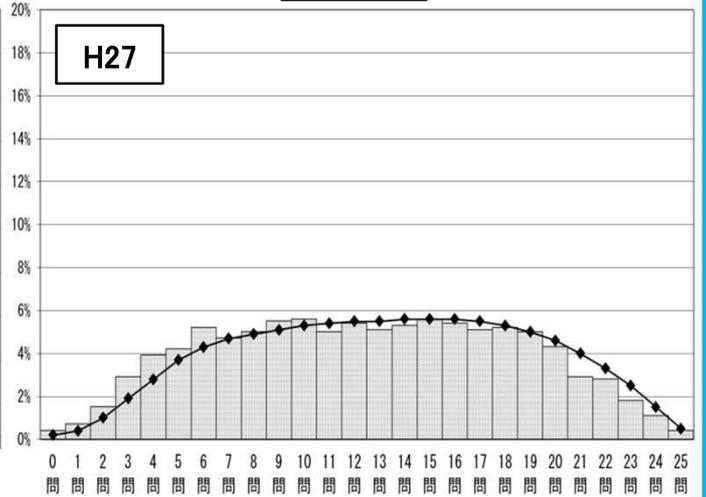
■ 北九州市立小・中学校
◆ 全国（公立）

理科では、小学校・中学校ともに、低位層が減少し、高位層が増加している。分布図も全国平均に近づいている。

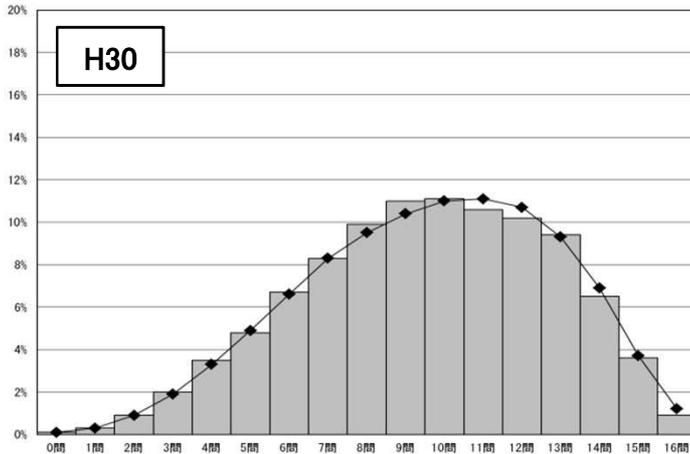
小理



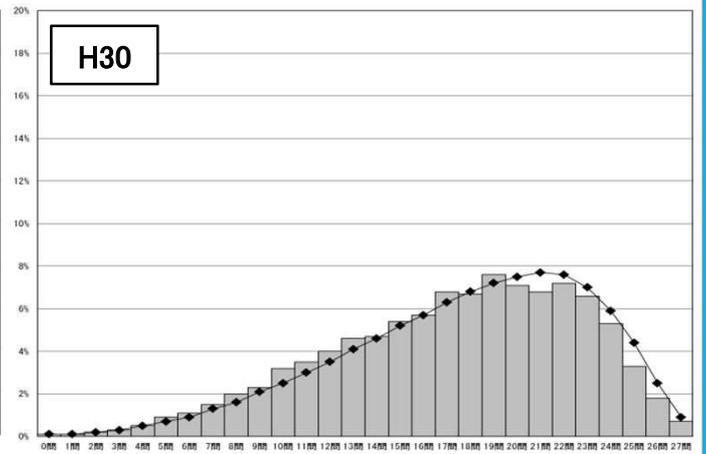
中理



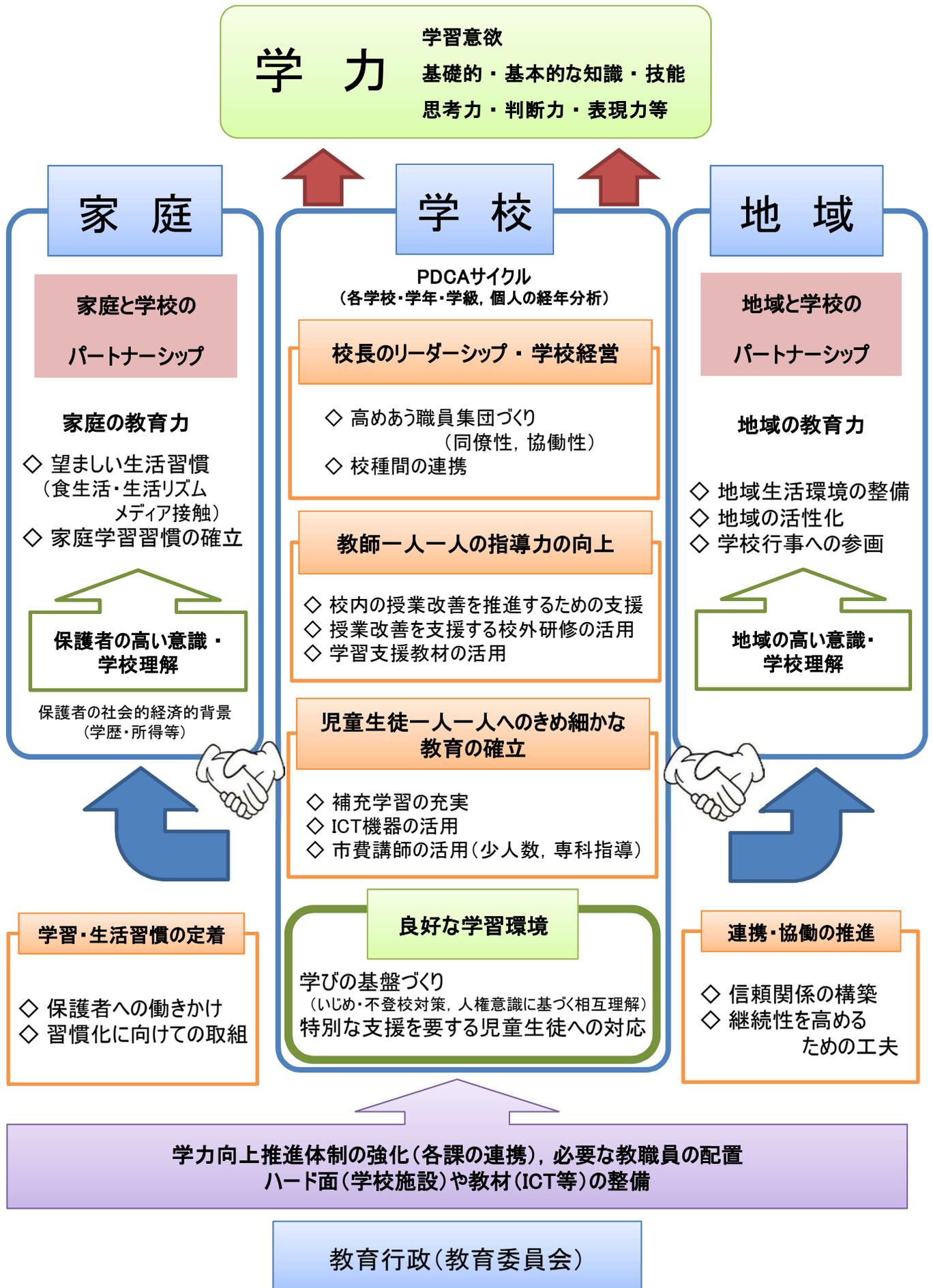
H30



H30



(6) 学力に影響を与える要因



(7) 学習状況調査結果

～ 「学びの育ち」と「心の育ち」の更なる成長に向けて ～

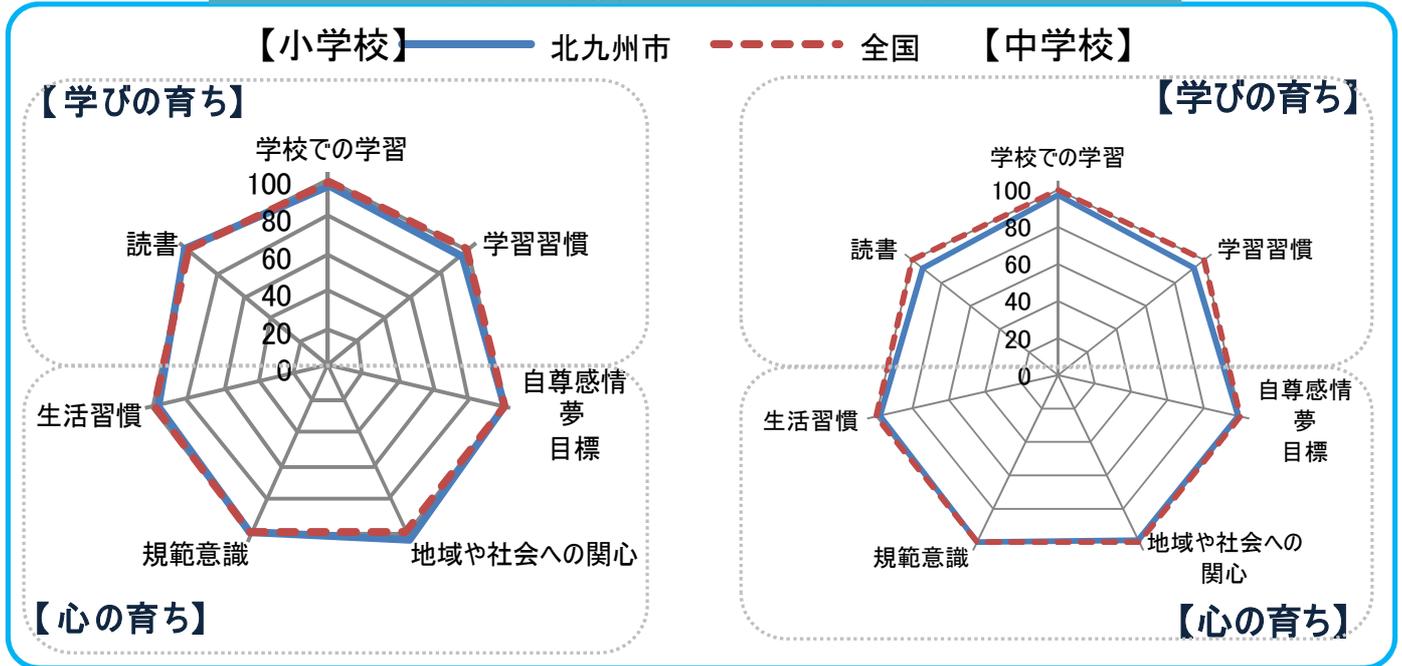
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」と「心の育ち」に関係の深い質問項目を選び、子どもたちの質問に対する回答状況を数値化し、指標としています。

なお、★印は、平成30年1月に実施した北九州市学力状況調査(小5・中2)の結果を掲載しています。

		質問項目
学びの育ち	学校での学習	★授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。
		★学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。
		★授業では、学級の友達(生徒)との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。
		学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。
		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。
		★「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
		算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか。
		算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。
		理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。
		理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	
	家で、学校の宿題をしていますか。	
	学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	
読書	★読書は好きですか。	
心の育ち	生活習慣	朝食を毎日食べていますか。
		毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
		★普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。
	自尊感情 夢 目標	★普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)
		自分には、よいところがあると思いますか。
将来の夢や目標を持っていますか。		
地域や 社会への 関心	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	
	地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか。	
		今住んでいる地域の行事に参加していますか。



平成30年度 本市と全国との比較



「学びの育ち」について

＜学校での学習について＞

- 「授業の最後に学習内容を振り返る活動」「話し合う活動」が、小・中学校ともに全国平均を上回っている。授業改善に向けた取組が進んでいる。
- ◎ 今後は、「めあて」や「振り返り」の質の向上や、考えを広げ、深めることができるような「話し合う活動」の実現に向け、研修会を実施する等、授業の質の向上に向けた取組を進めていく。

＜学習習慣について＞

- 「学校の宿題をしていますか」については、小6，中3ともに全国平均と同程度となっている。「学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上勉強している」については全国平均を若干下回っているが、改善傾向にある。
- ◎ 今後、各学校で宿題に関するルール(内容、分量、予定等)を定め、家庭学習について、意図的・計画的に実施し、学習習慣の確立と、学習内容の確実な定着を図ることが求められている。また、児童生徒の習熟度に応じた教材の準備、自学の習慣の定着等の取組を一層進めていく必要がある。

「心の育ち」について

＜自尊感情・夢・目標について＞

- 「自分には、よいところがある」については、H27年度の取組状況と比べると、小6，中3ともに、年々肯定的な回答が増え、全国と同程度になっている。
- ◎ 今後も引き続き、学校・家庭・地域での様々な活動を通して、児童生徒が自己有用感を実感したり、達成感を味わうことができたりする機会を意図的・計画的に設定していく必要がある。

＜地域や社会への関心について＞

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」については、肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均と同程度となり、全国平均に近づいている。
- ◎ 今後一層地域との連携を図っていく必要がある。地域の祭りや伝統行事、市民センターや公民館の行事等に進んで参加できる環境を整え、地域のよさに気付かせるとともに、シビックプライドを育成したい。

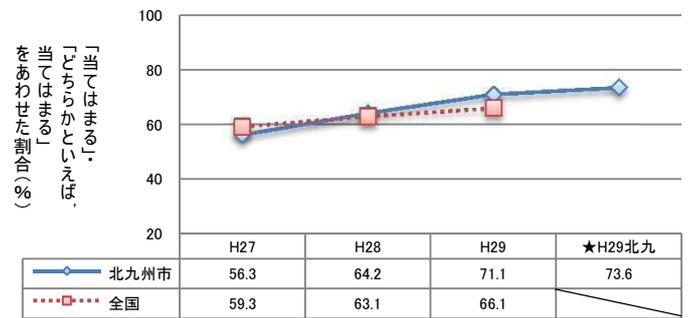
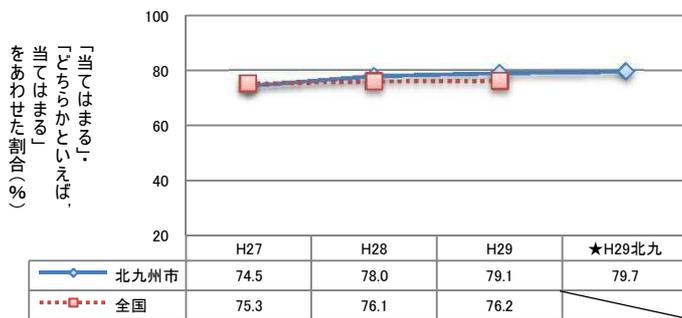
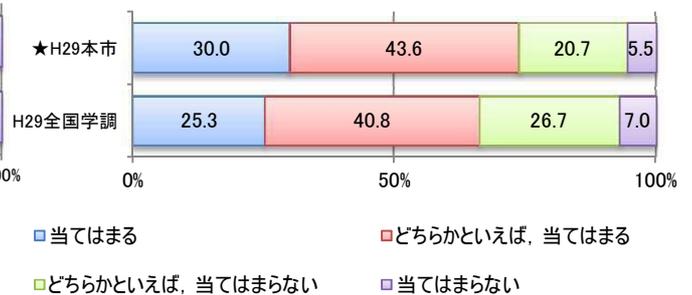
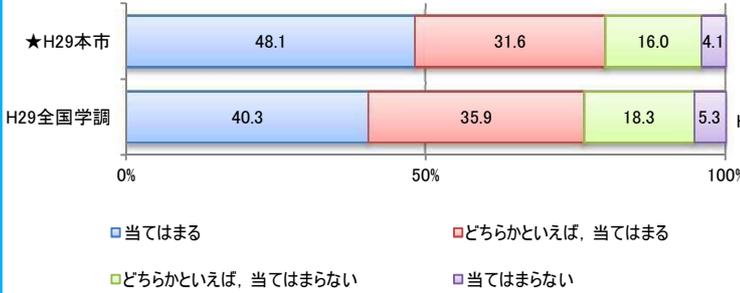
学習状況調査結果 ① 学びの育ち【学校での学習について】 ～ 児童生徒質問紙より ～

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

★H29北九学調 小5(62)・中2(64) 【授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか】

【小学校】

【中学校】

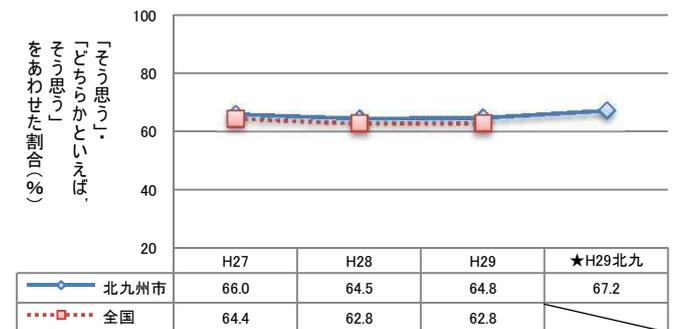
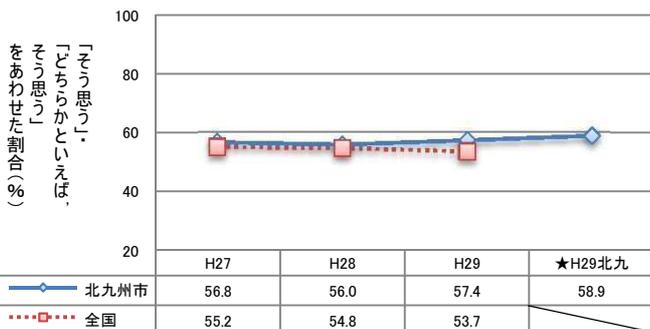
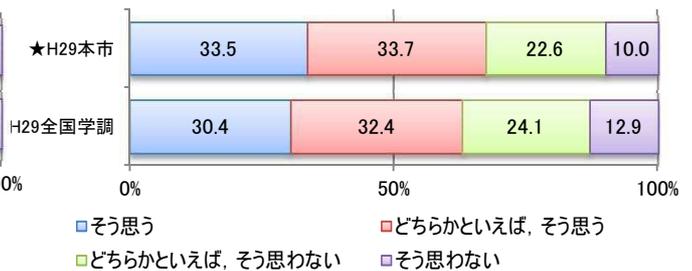
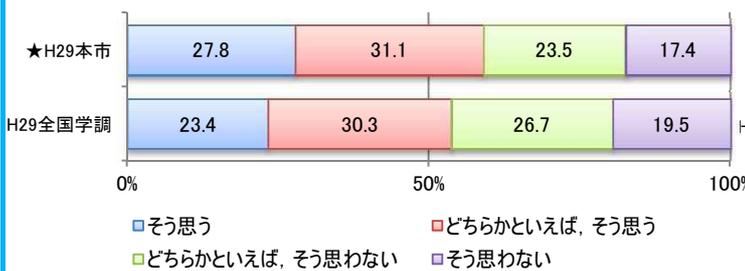


「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均を若干上回り、中学校では全国平均を上回っており、年々増加している。

★H29北九学調 小5(67)・中2(69) 【学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか】 ※この項目は、数値が少ないほうがよい。

【小学校】

【中学校】

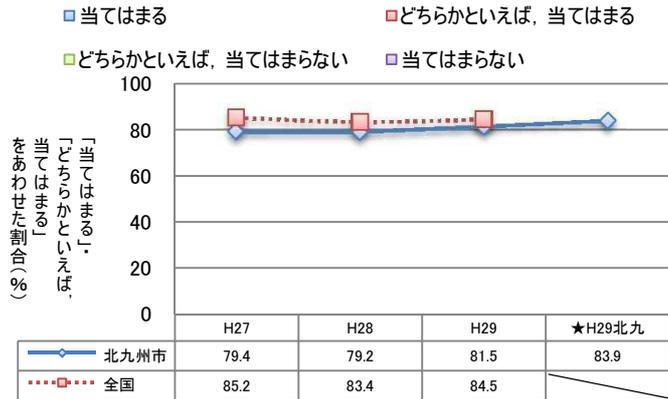
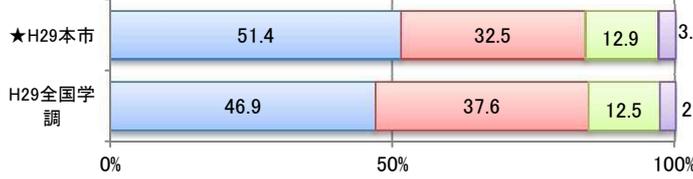


「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均を上回り、中学校では全国平均を若干上回っている。

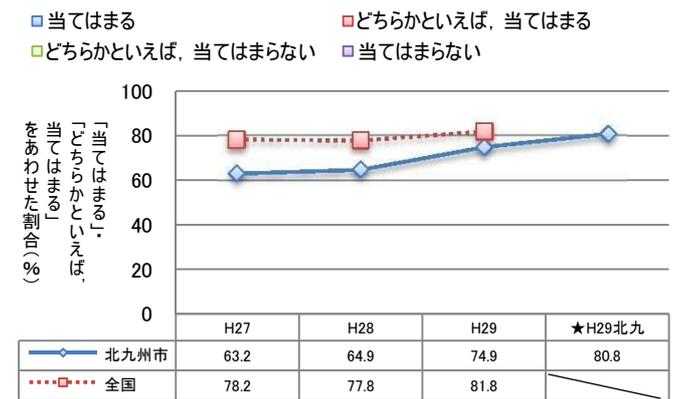
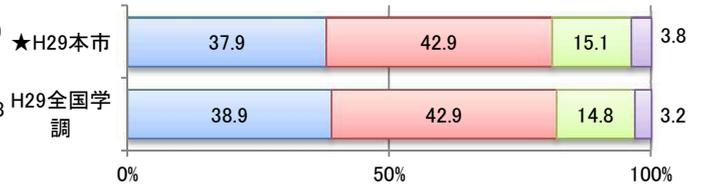
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に關係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

★H29北九学調 小5(57)・中2(59) 【授業では、学級の友達(生徒)との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか】

【小学校】



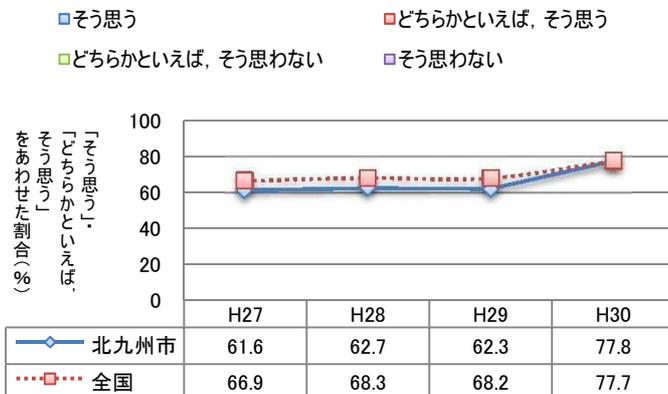
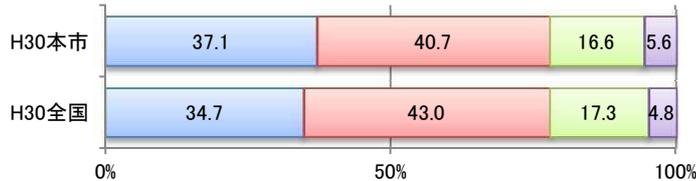
【中学校】



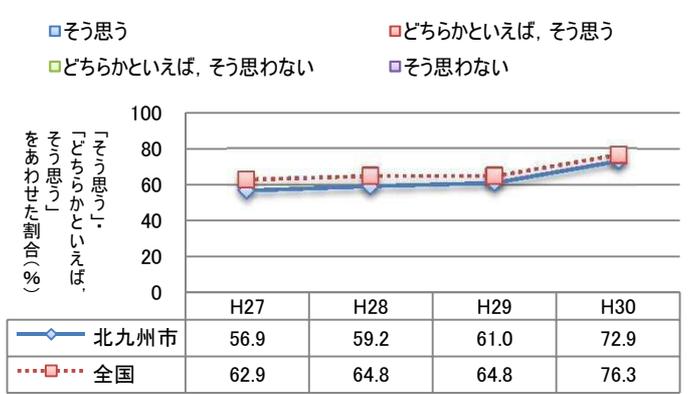
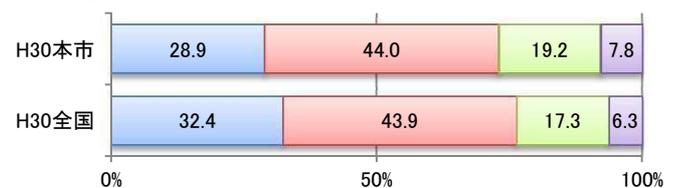
「授業では、学級の友達の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校3ともに全国平均に近づき、同程度となっている。

質問番号 小57・中54 【学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】

【小学校】



【中学校】

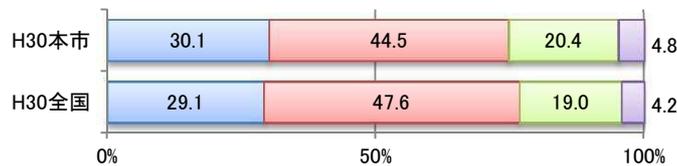


「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均と同程度となり、中学校では全国平均を若干下回っている。

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

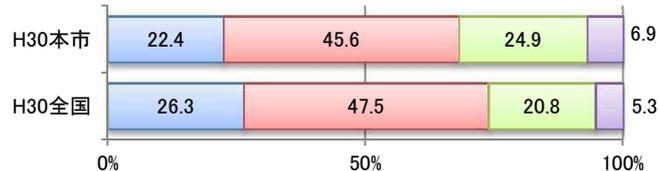
質問番号 小55・中52 【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか】

【小学校】

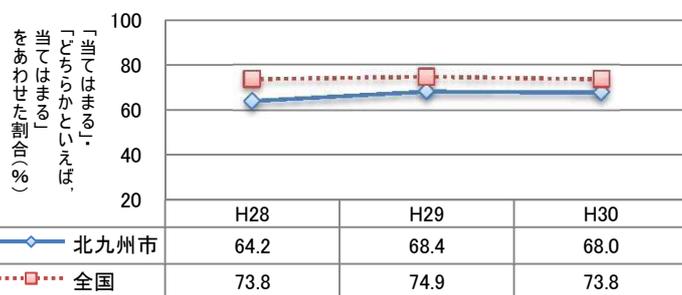
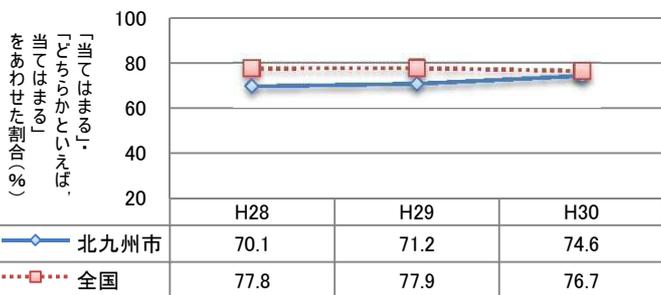


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【中学校】



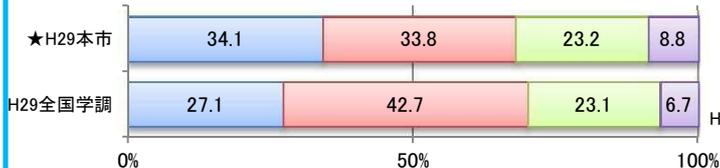
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均と同程度となり、中学校では下回っている。

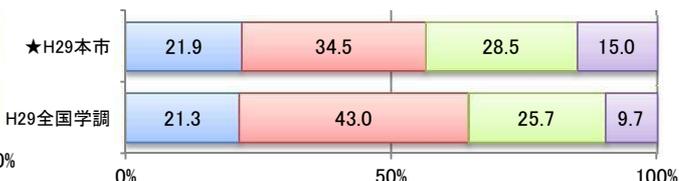
★H29北九学調 小5(54)・中2(56) 【『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか】

【小学校】

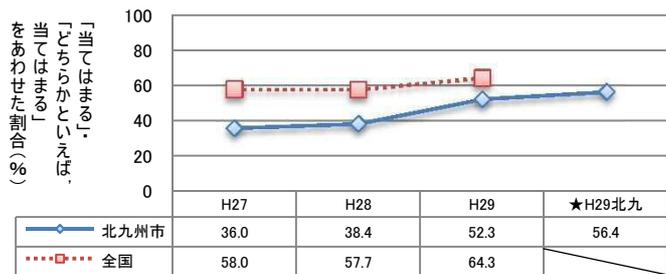
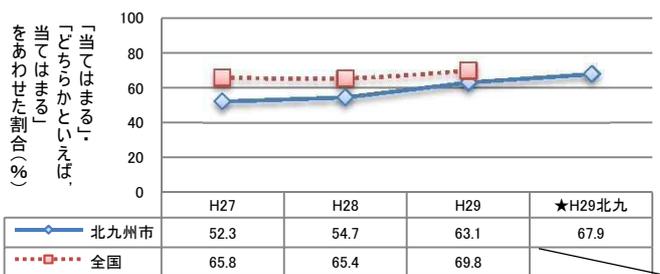


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【中学校】



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

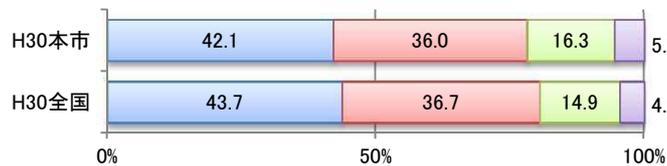


『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では同程度となり、中学校では下回っている。

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に關係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

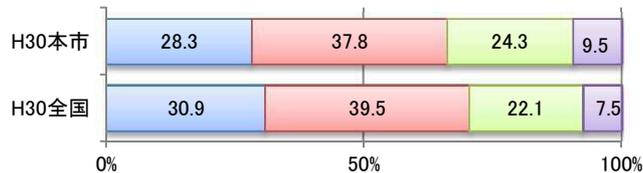
質問番号 小35・中35 【算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき, そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか】

【小学校】

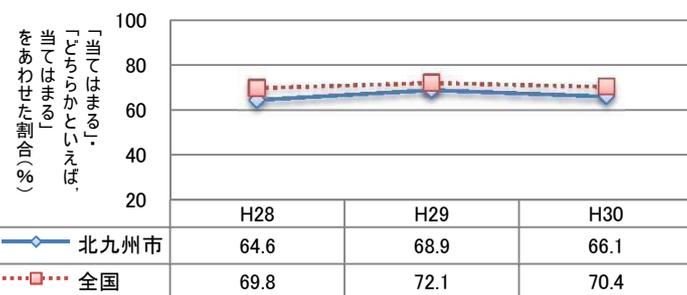
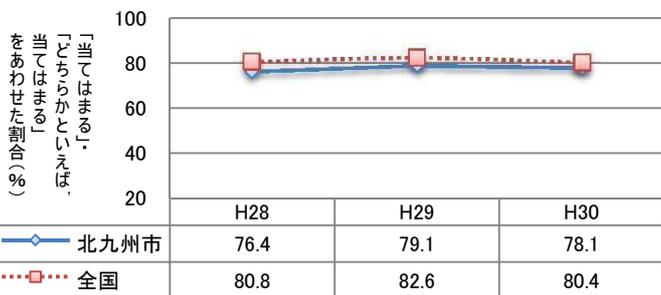


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【中学校】



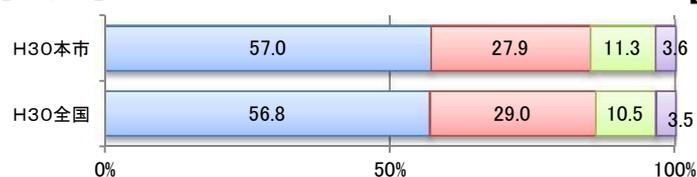
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



「算数の授業で公式やきまりを習うとき, そのわけを理解するようにしていますか」について, 肯定的な回答をした割合は, 小学校では全国平均と同程度, 中学校では若干下回っている。

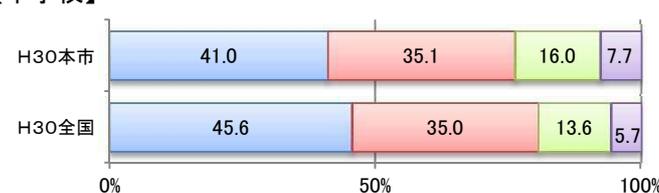
質問番号 小36・中36 【算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか】

【小学校】

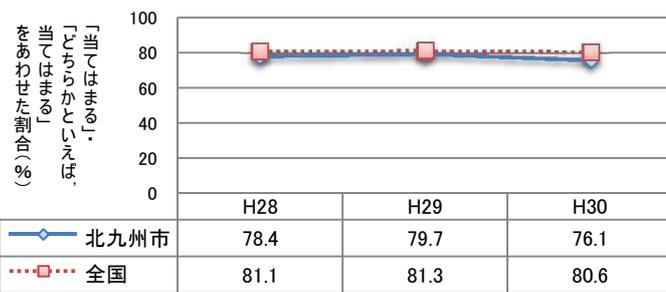
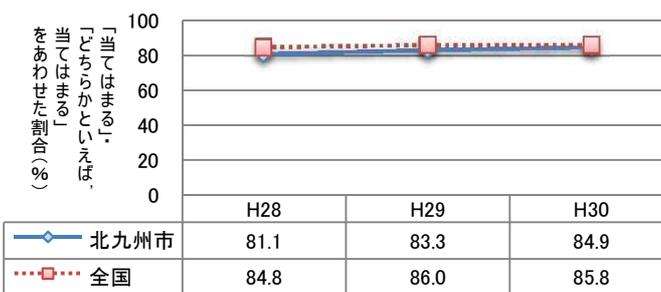


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【中学校】



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

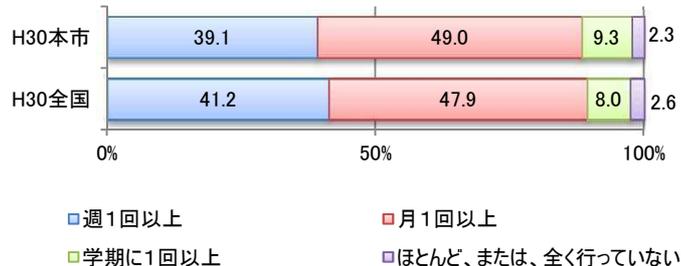


「算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」について, 肯定的な回答をした割合は, 小学校では同程度, 中学校では若干下回っている。

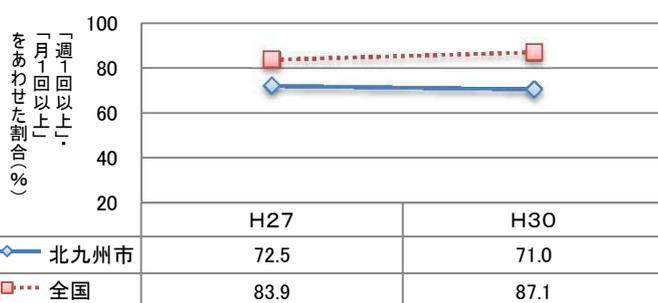
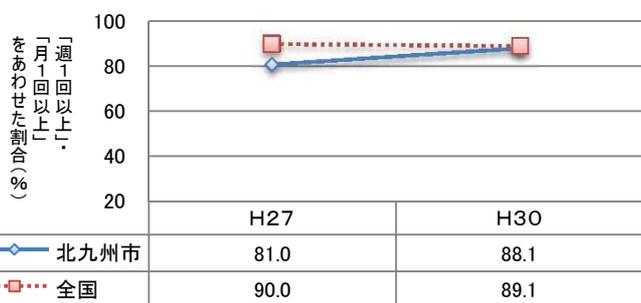
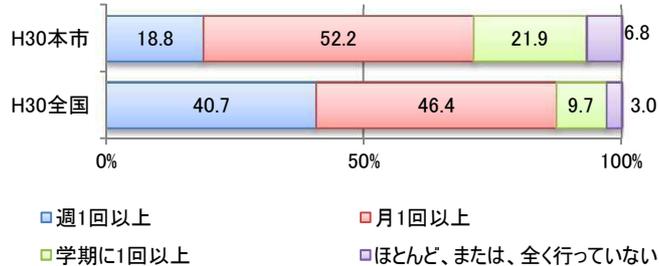
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小46・中46 【理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか】

【小学校】



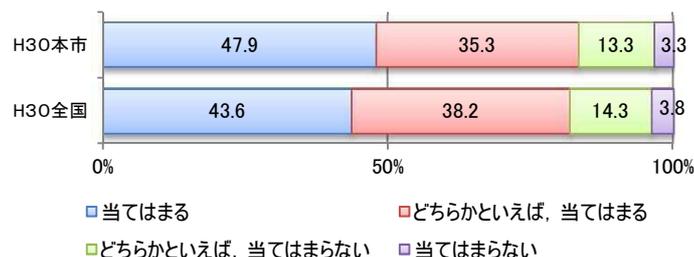
【中学校】



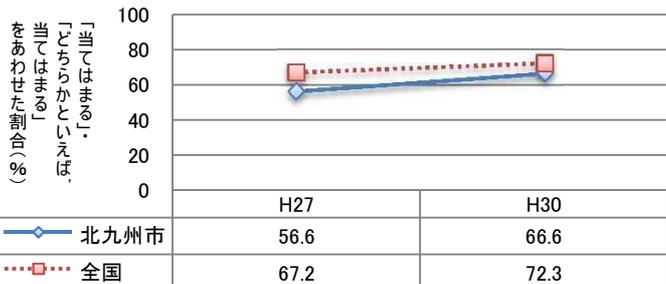
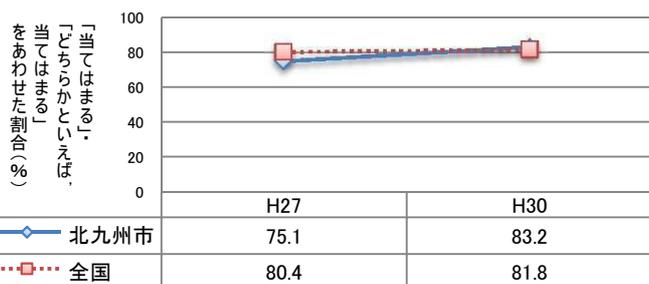
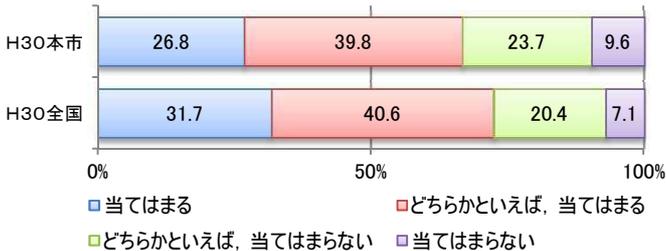
「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校は全国平均と同程度、中学校では下回っている。

質問番号 小49・中49 【理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか】

【小学校】



【中学校】

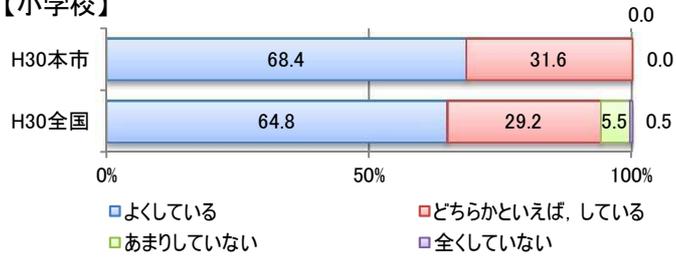


「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均と同程度、中学校で下回っている。

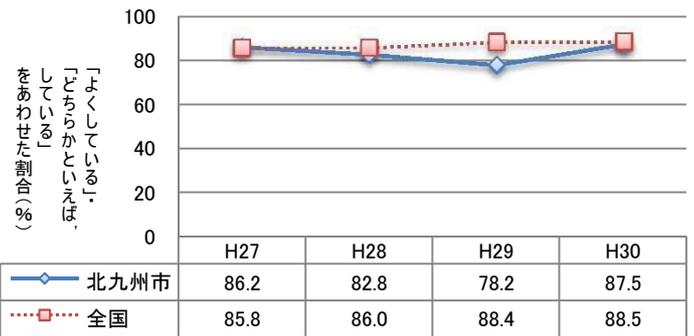
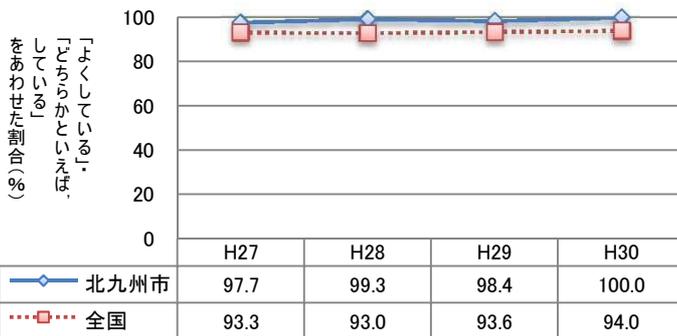
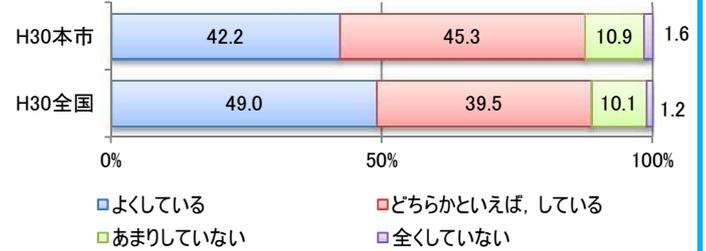
学校質問紙から、「学びの育ち」に關係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小73・中70 【学校でテーマを決め, 講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか】

【小学校】



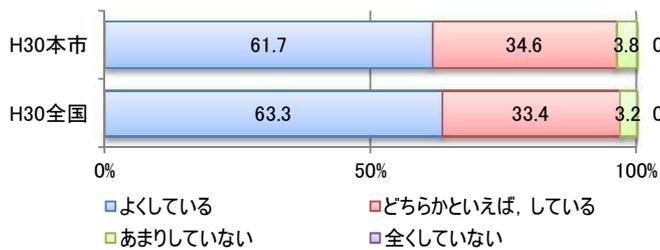
【中学校】



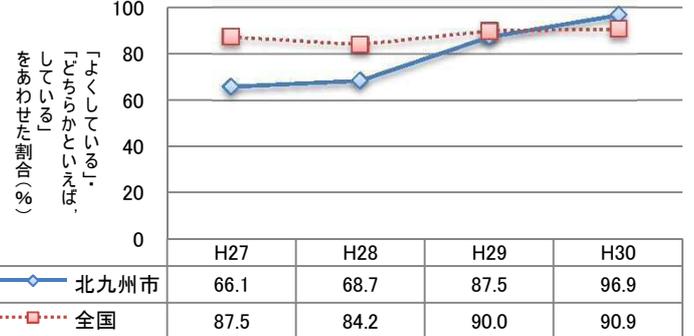
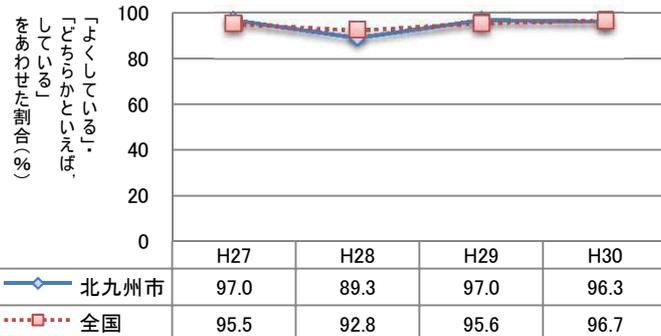
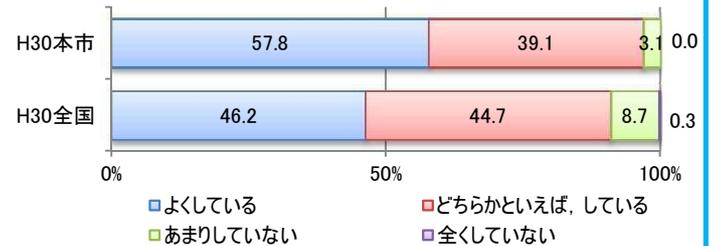
「学校でテーマを決め, 講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか」について, 肯定的な回答をした学校の割合は, 小学校では全国平均を上回っており, 中学校では同程度である。

質問番号 小74・中71 【模擬授業や事例研究など, 実践的な研修を行っていますか】

【小学校】



【中学校】

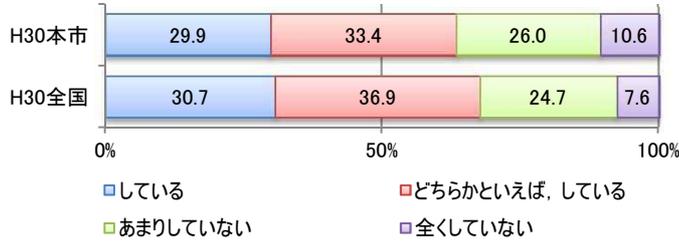


「模擬授業や事例研究など, 実践的な研修を行っていますか」について, 肯定的な回答をした学校の割合は, 小学校では全国平均と同程度であり, 中学校では全国平均を上回っている。

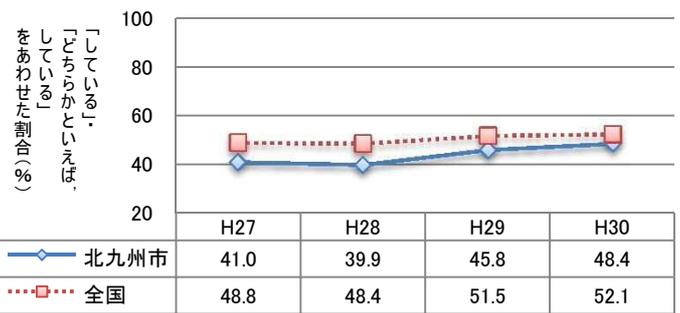
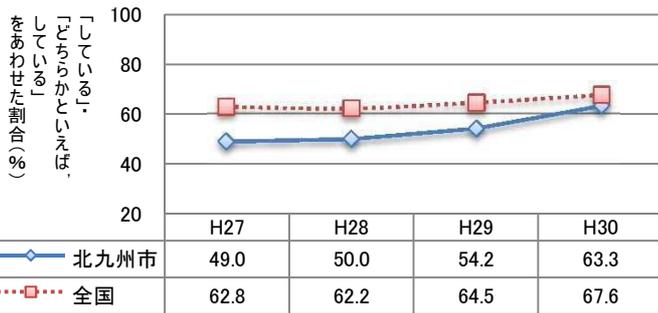
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中10 【家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか】

【小学校】



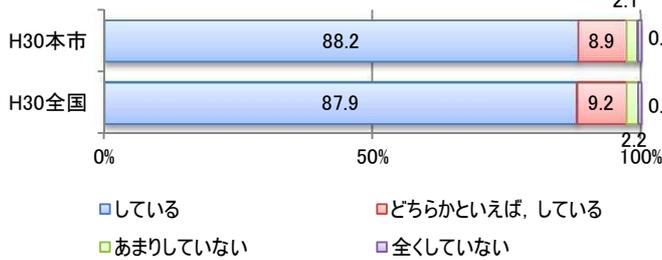
【中学校】



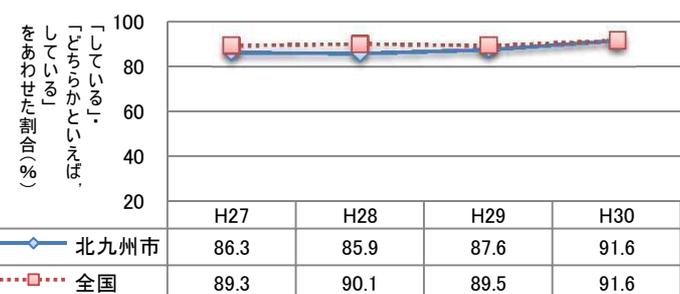
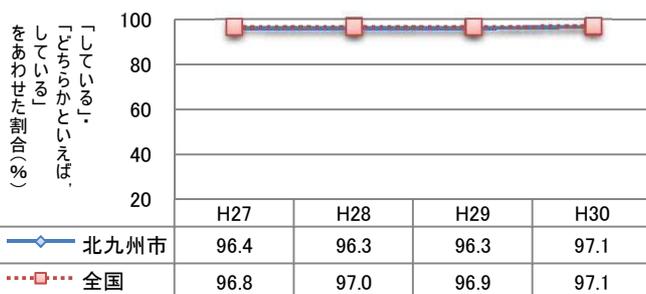
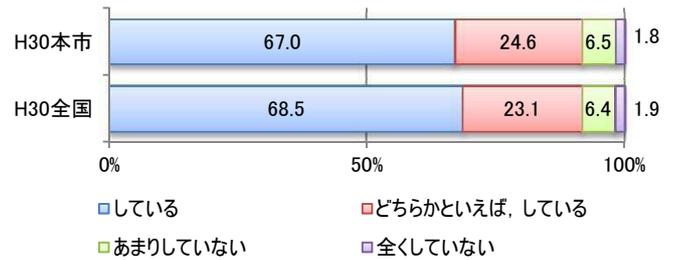
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均を若干下回っているが、全国平均に近づいている。

質問番号 小・中11 【家で、学校の宿題をしていますか】

【小学校】



【中学校】

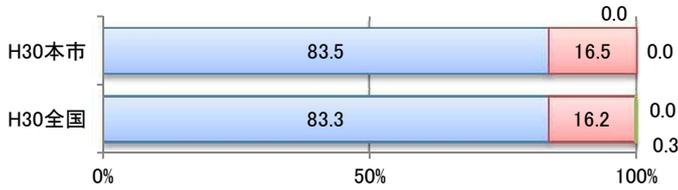


「家で、学校の宿題をしていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。

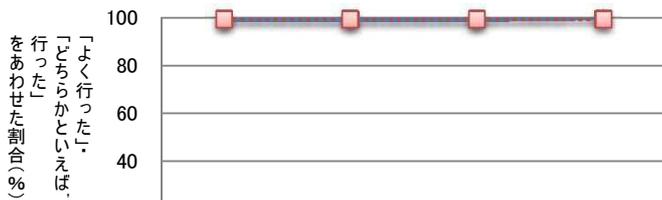
学校質問紙から、「学びの育ち」に關係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小67・中64 【調査対象学年の児童生徒に対して, 前年度までに, 算数・数学の指導として, 家庭学習の課題(宿題)を与えましたか】

【小学校】

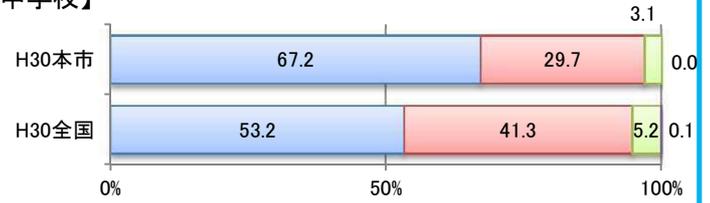


よく行った どちらかといえば、行った
あまり行っていない 全く行っていない

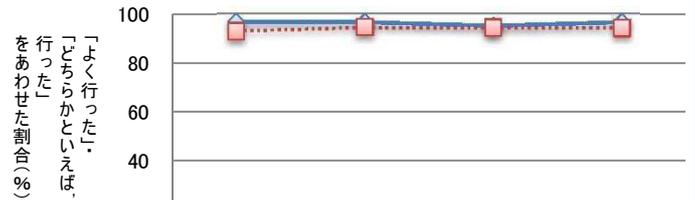


調査対象	H27	H28	H29	H30
北九州市	99.3	99.3	99.3	100.0
全国	99.6	99.6	99.6	99.5

【中学校】



よく行った どちらかといえば、行った
あまり行っていない 全く行っていない

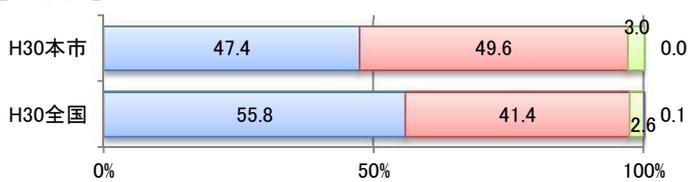


調査対象	H27	H28	H29	H30
北九州市	96.9	96.9	95.4	96.9
全国	93.3	94.8	94.7	94.5

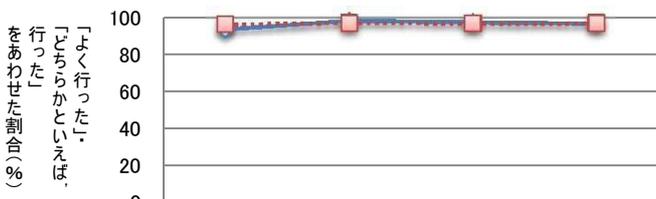
「調査対象学年の児童生徒に対して, 前年度までに, 算数・数学の指導として, 家庭学習の課題(宿題)を与えましたか」について, 肯定的な回答をした学校の割合は, 小・中学校ともに全国平均と同程度である。

質問番号 小63・中60 【調査対象学年の児童生徒に対して, 前年度までに, 保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語／算数・数学共通)】

【小学校】

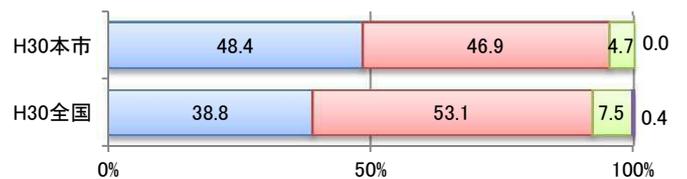


よく行った どちらかといえば、行った
あまり行っていない 全く行っていない

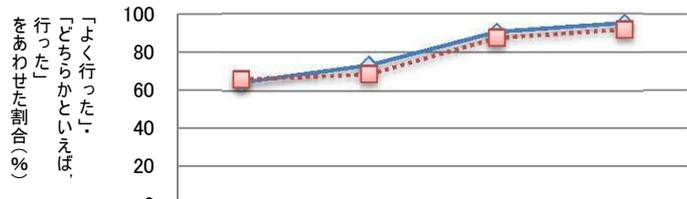


調査対象	H27	H28	H29	H30
北九州市	93.9	98.5	97.7	97.0
全国	96.5	97.3	97.0	97.2

【中学校】



よく行った どちらかといえば、行った
あまり行っていない 全く行っていない



調査対象	H27	H28	H29	H30
北九州市	64.6	73.5	90.7	95.3
全国	66.1	68.8	87.6	91.9

「調査対象学年の児童生徒に対して, 前年度までに, 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語／算数・数学共通)」について, 肯定的な回答をした学校の割合は, 小学校では全国平均と同程度, 中学校では, 全国平均を若干上回っている。

【学習習慣について】

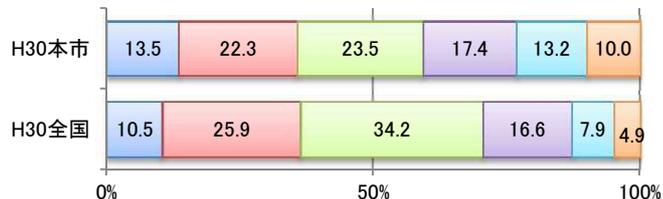
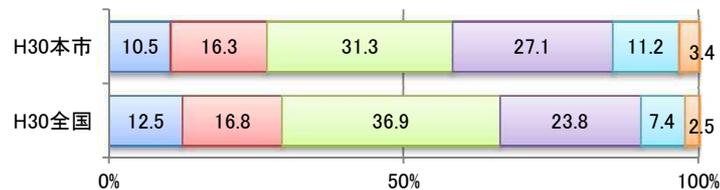
～ 児童生徒質問紙より ～

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中14 【学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)】

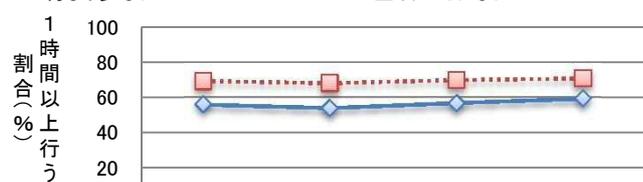
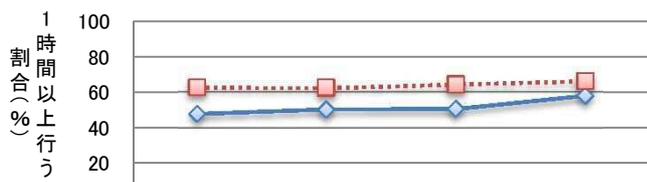
【小学校】

【中学校】



■ 3時間以上 ■ 2時間以上, 3時間より少ない
■ 1時間以上, 2時間より少ない ■ 30分以上, 1時間より少ない
■ 30分より少ない ■ 全くやっていない

■ 3時間以上 ■ 2時間以上, 3時間より少ない
■ 1時間以上, 2時間より少ない ■ 30分以上, 1時間より少ない
■ 30分より少ない ■ 全くやっていない



Year	H27	H28	H29	H30
北九州市	48.0	50.5	50.8	58.1
全国	62.7	62.5	64.4	66.2

Year	H27	H28	H29	H30
北九州市	56.0	54.0	56.8	59.3
全国	69.0	67.9	69.6	70.6

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」について、「1時間以上勉強している」と回答した割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っているが、全国平均との差が縮まってきている。

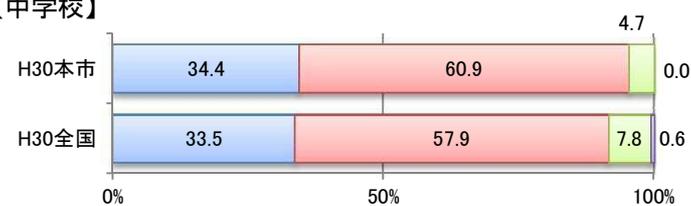
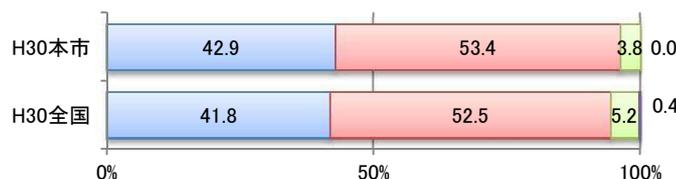
【補足的な学習について】

～ 学校質問紙より ～

質問番号 小37・中36 【算数・数学の指導として、前年度までに、補足的な学習の指導を行いましたか】

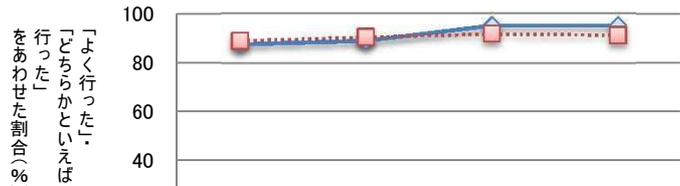
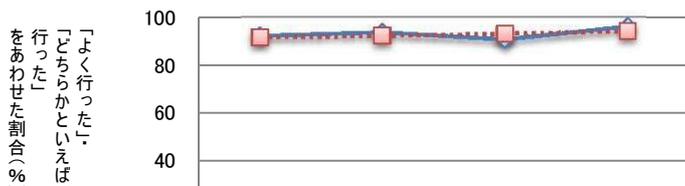
【小学校】

【中学校】



■ よく行った ■ どちらかといえば、行った
■ あまり行ってない ■ 全く行ってない

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った
■ あまり行ってない ■ 全く行ってない



Year	H27	H28	H29	H30
北九州市	92.4	93.9	90.9	96.3
全国	91.8	92.4	93.3	94.3

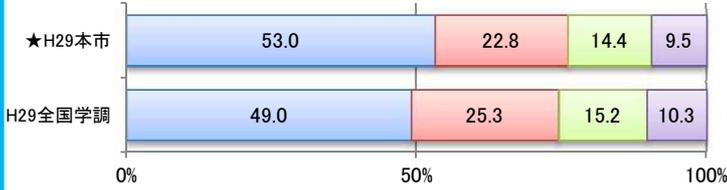
Year	H27	H28	H29	H30
北九州市	87.7	89.1	95.3	95.3
全国	89.1	90.6	91.9	91.4

「算数・数学の指導として、前年度までに、補足的な学習の指導を行いましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では全国平均と同程度で、中学校では全校平均を若干上回っている。

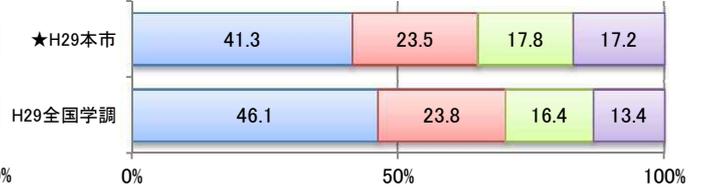
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

★北九学調 小5(72)・中2(74) 【読書は好きですか】

【小学校】

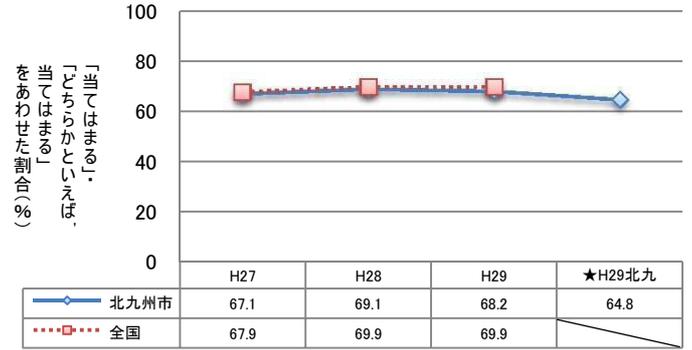
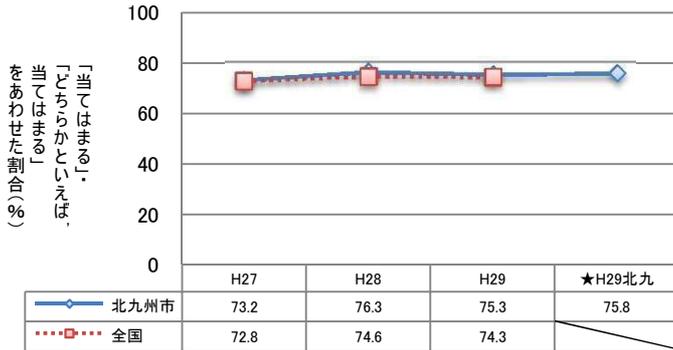


【中学校】



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



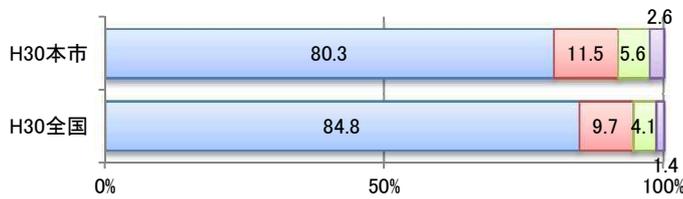
「読書は好きですか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均と同程度、中学校では全国平均を下回っている。



児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

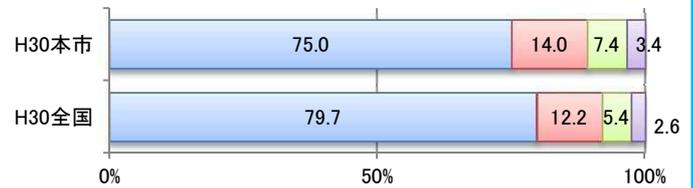
質問番号 小・中7【朝食を毎日食べていますか】

【小学校】

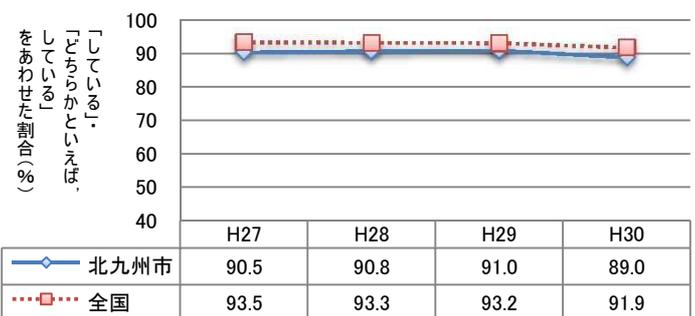
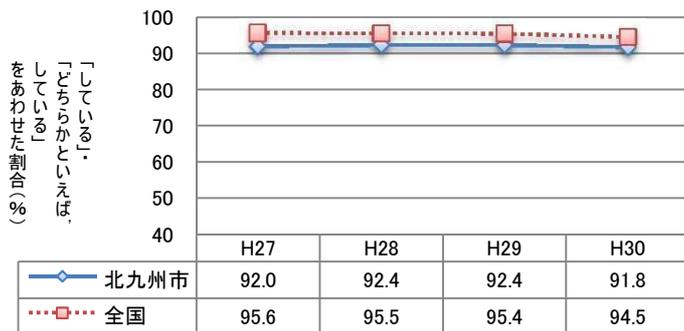


■ している ■ どちらかといえば、している
■ どちらかといえば、していない ■ 全くしていない

【中学校】



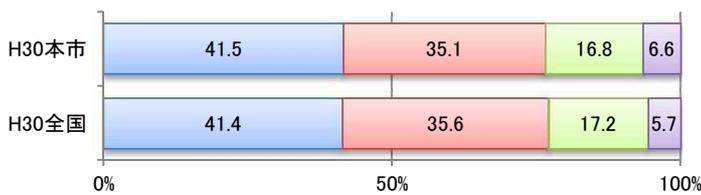
■ している ■ どちらかといえば、している
■ どちらかといえば、していない ■ 全くしていない



「朝食を毎日食べていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。

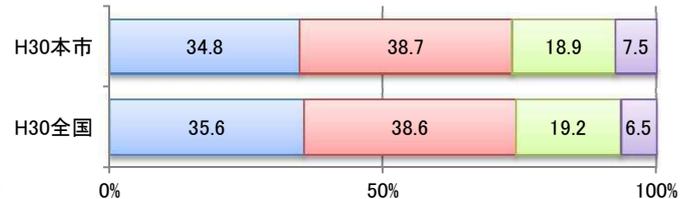
質問番号 小・中8【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】

【小学校】

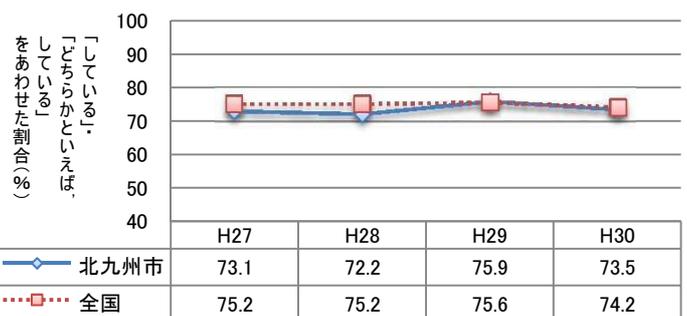
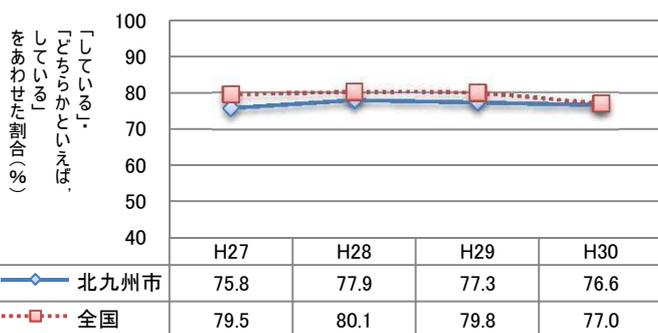


■ している ■ どちらかといえば、している
■ どちらかといえば、していない ■ 全くしていない

【中学校】



■ している ■ どちらかといえば、している
■ どちらかといえば、していない ■ 全くしていない



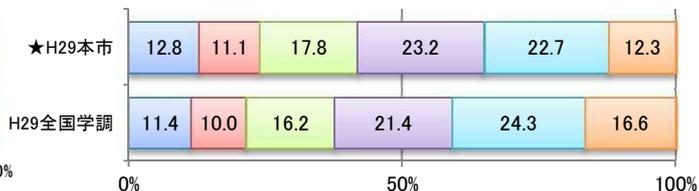
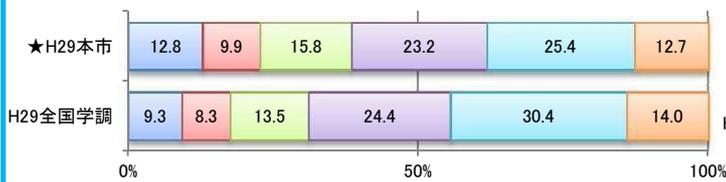
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

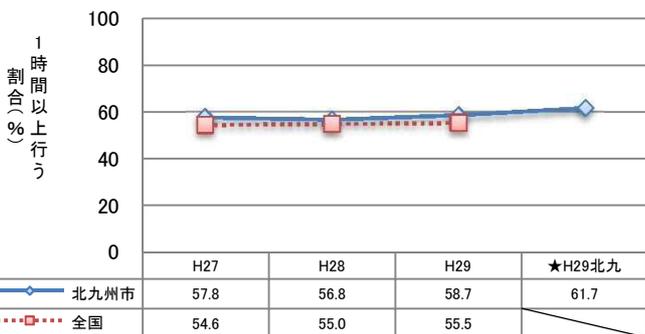
★H29北九学調 小5・中2(13)【普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか】
 ※ この項目は, 数値が少ないほうがよい。

【小学校】

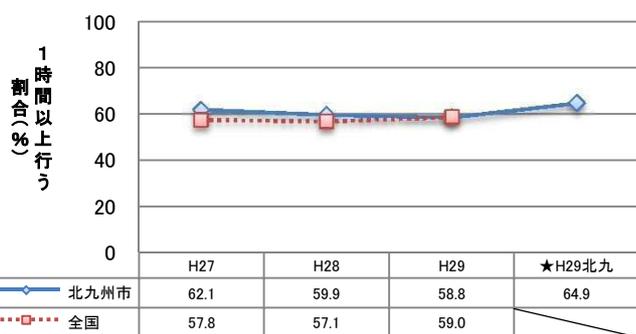
【中学校】



1時間以上行う割合(%)



1時間以上行う割合(%)

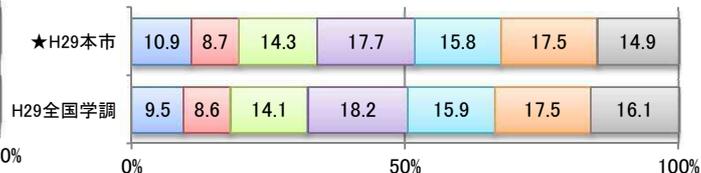
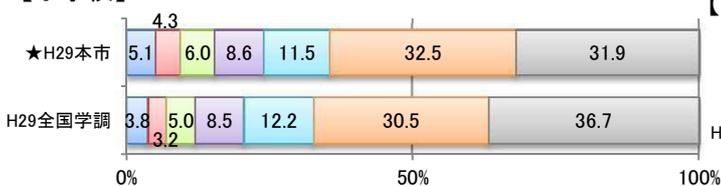


「普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」について, 「1時間以上行う」と回答した割合は, 小・中学校ともに, 全国平均を上回っている。

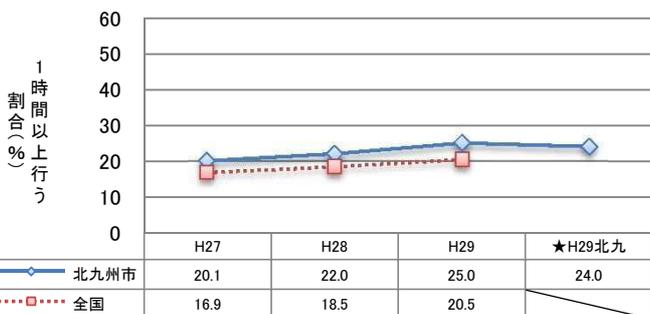
★H29北九学調 小5・中2(14)【普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)】
 ※ この項目は, 数値が少ないほうがよい。

【小学校】

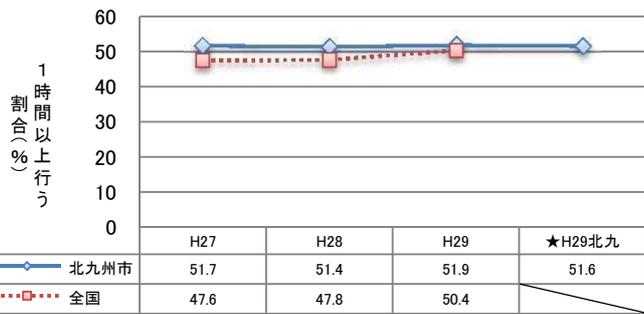
【中学校】



1時間以上行う割合(%)



1時間以上行う割合(%)

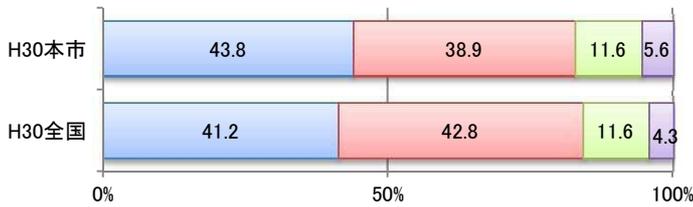


「普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」について, 「1時間以上行う」と回答した割合は, 小学校では全国平均を若干上回り, 中学校では同程度である。

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

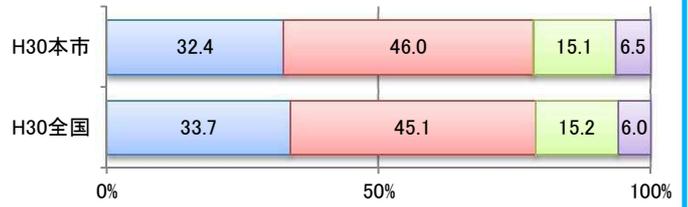
質問番号 小・中 1 【自分には、よいところがあると思いますか】

【小学校】

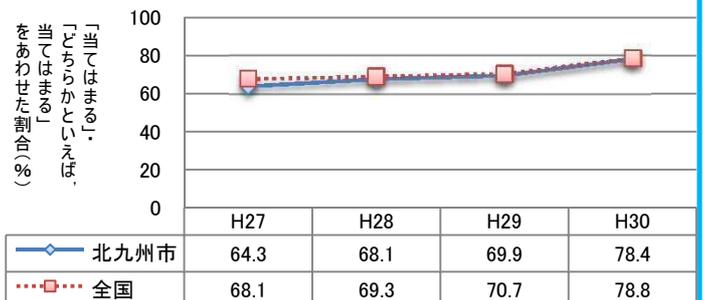
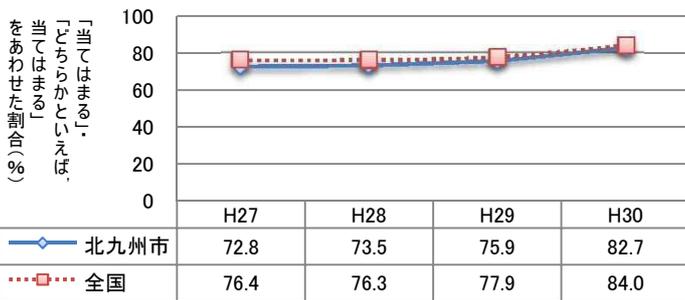


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

【中学校】



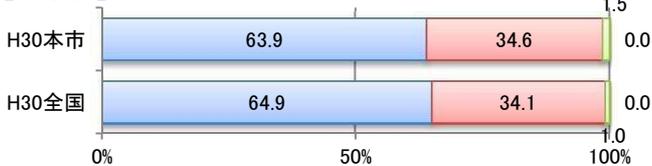
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



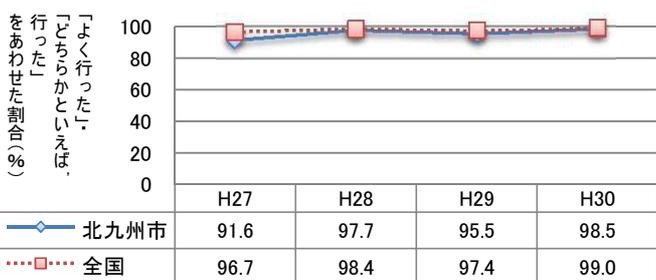
「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに、全国平均と同程度である。

質問番号 小30・中29 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか】

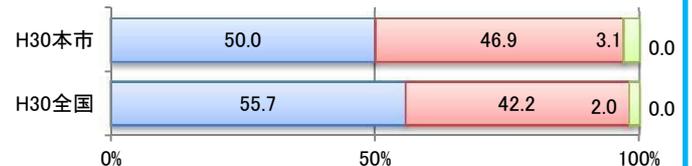
【小学校】



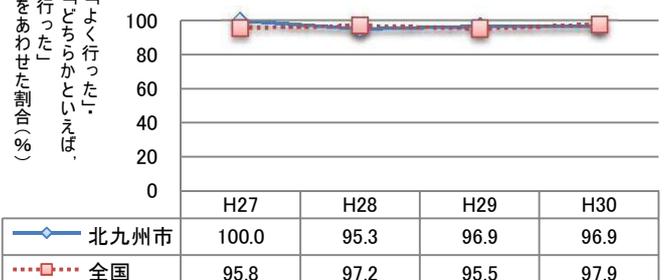
■ よく行った ■ どちらかといえば、行った
■ あまり行っていない ■ 全く行っていない



【中学校】



■ よく行った ■ どちらかといえば、行った
■ あまり行っていない ■ 全く行っていない

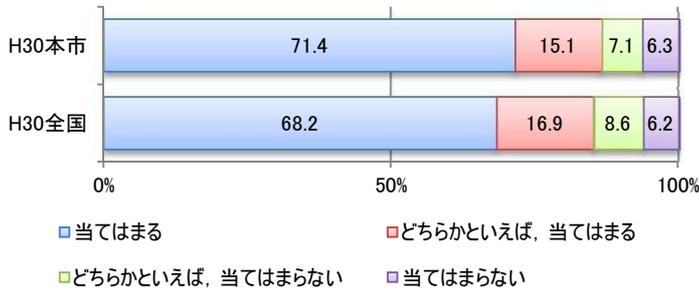


「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小・中学校ともに、全国平均と同程度である。

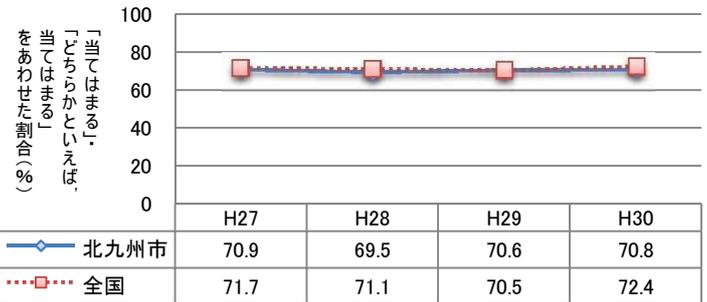
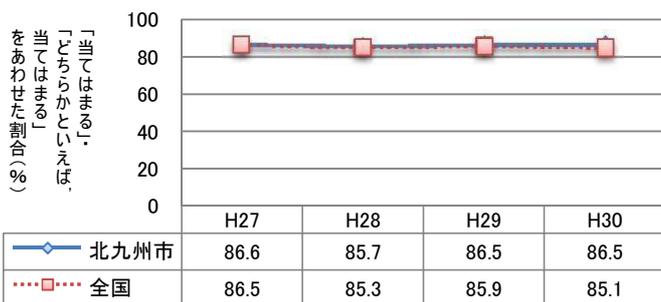
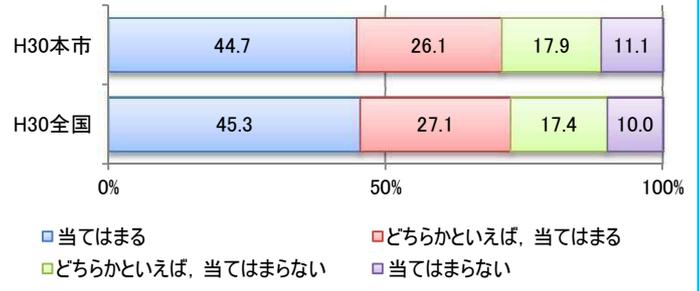
児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中3 【将来の夢や目標を持っていますか】

【小学校】



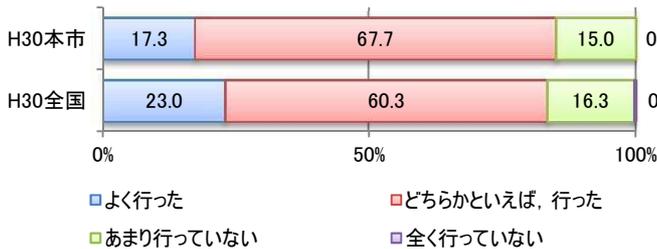
【中学校】



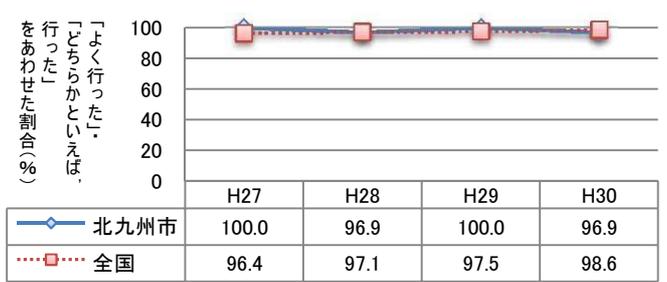
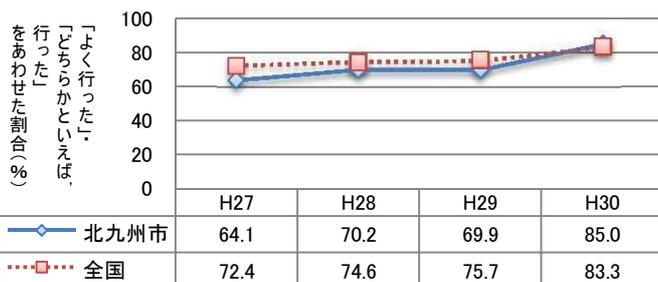
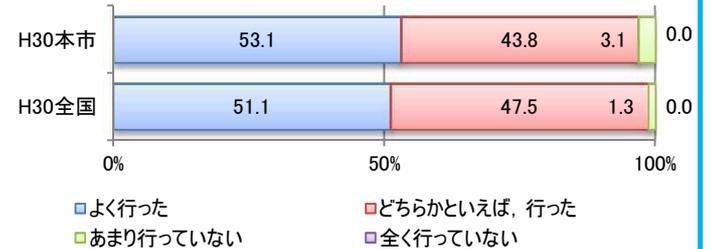
「将来の夢や目標を持っていますか」について、肯定的な回答した割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。

質問番号 小23・中22 【調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか】

【小学校】



【中学校】

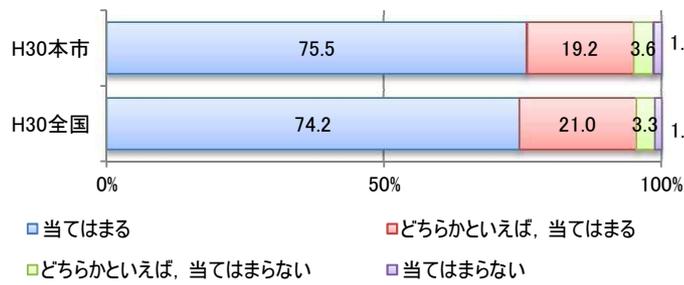


「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。

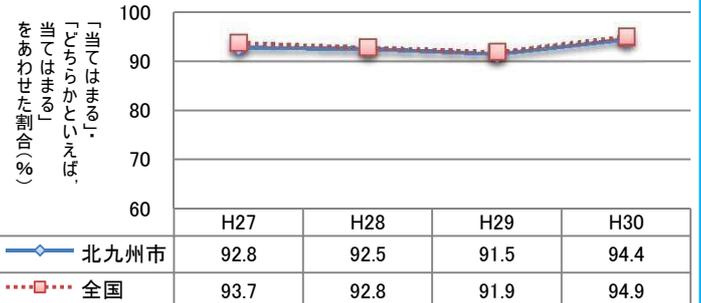
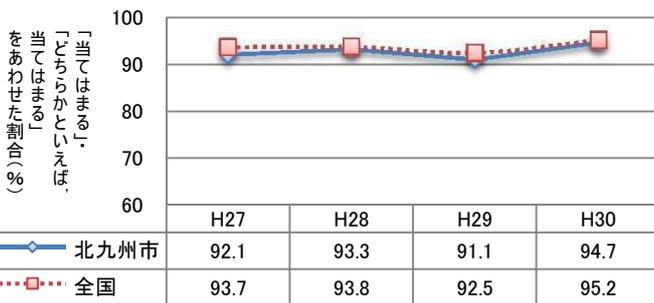
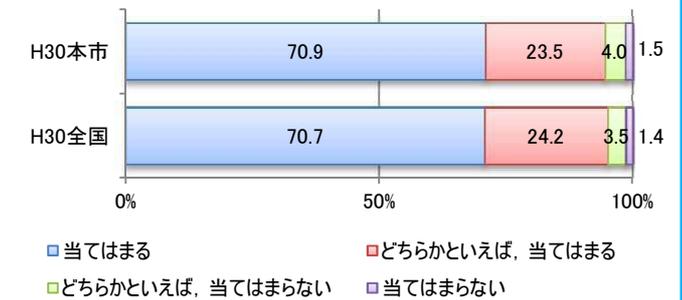
児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中6 【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】

【小学校】



【中学校】



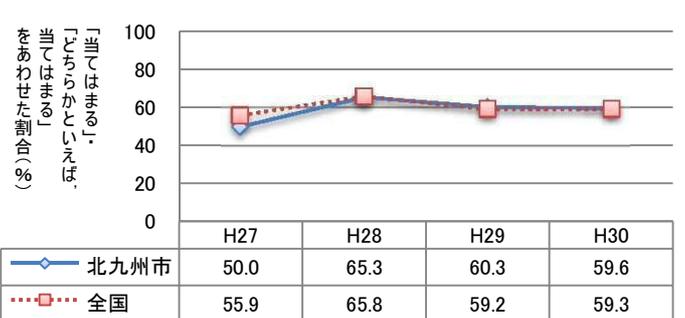
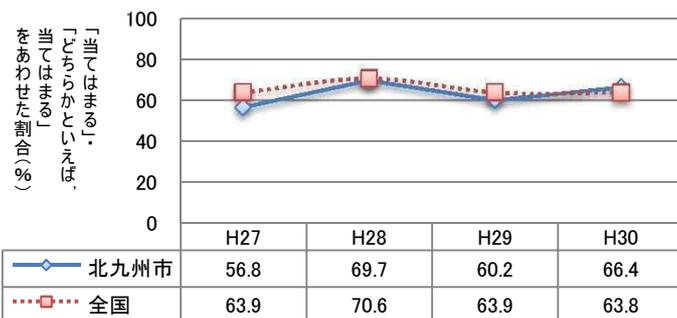
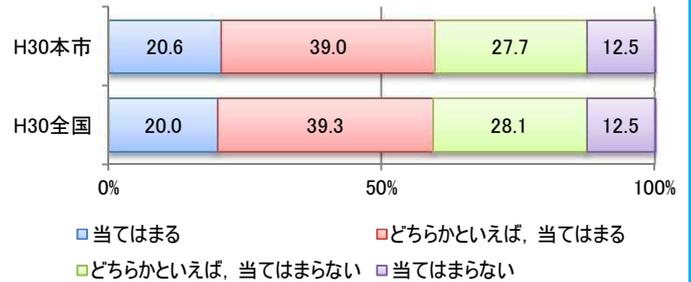
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。

質問番号 小・中21 【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか】

【小学校】



【中学校】



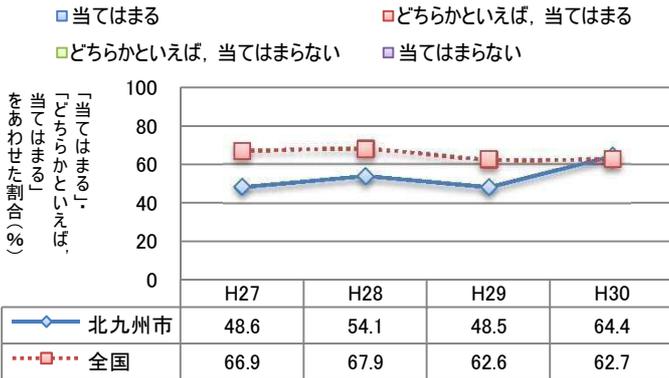
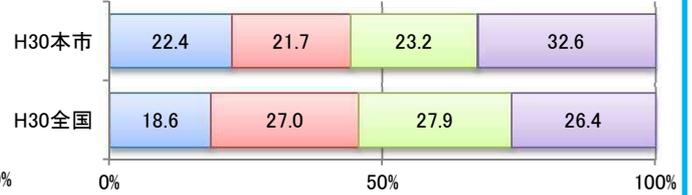
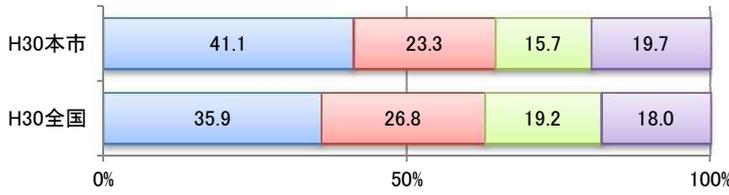
「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均を若干下回っているが、中学校では全国平均と同程度である。

児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中20 【今住んでいる地域の行事に参加していますか】

【小学校】

【中学校】

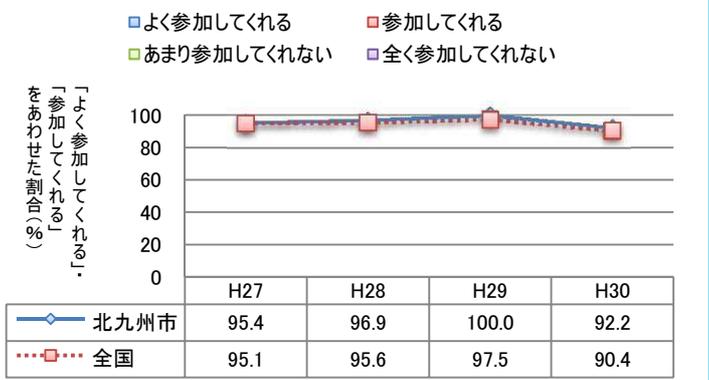
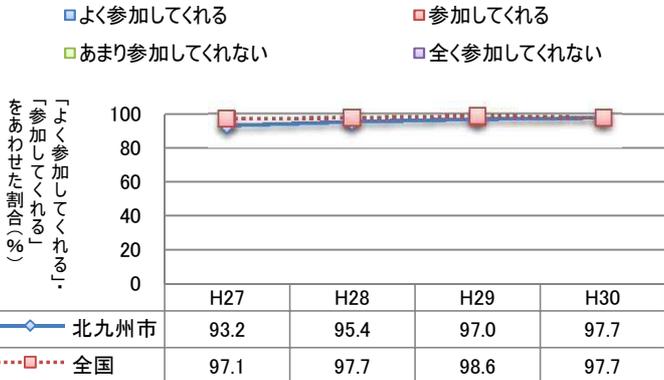
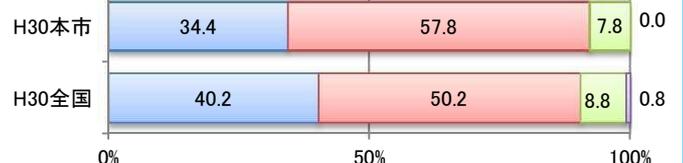
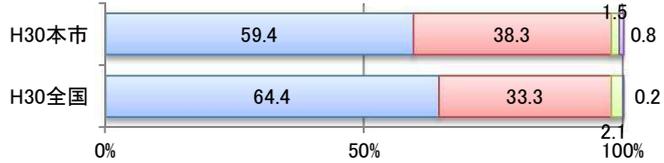


「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度となり、全国平均に近づいている。

質問番号 小60・中57 【保護者や地域の方が学校の美化, 登下校の見守り, 学習・部活動支援, 放課後支援, 学校行事の運営などの活動に参加していますか】

【小学校】

【中学校】



「保護者や地域の方が学校の美化, 登下校の見守り, 学習・部活動支援, 放課後支援, 学校行事の運営などの活動に参加していますか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。

(8) 学力向上アクションプランの成果と今後の方向性

【柱1】 全校体制でのPDCAサイクルの確立

<成果> スクールプランを基にしたPDCAサイクルの確立

- ・スクールプランに掲げた各校の課題を改善するためのPDCAサイクルが確立されつつある。
- ・「全国学力・学習状況調査」「北九州市学力状況調査」「学校独自のアンケート調査」等を基に、数値で客観的に実態を把握し、全職員で共通理解・共通行動を図りながら改善に向けた取組を行う学校が増えている。

<今後の方向性> 学校マネジメントのより一層の充実

- ・市内のよい学校マネジメント実施校の取組共有
- ・学校の実状に応じた学校訪問の実施
- ・本市人材育成方針に基づく、ミドルリーダーの育成

【柱1】
全校体制でのPDCA
サイクルの確立

学力向上

【柱2】
指導力向上のための
日々の継続的な取組

【柱3】
学力定着に向けた
協働的な取組

【柱2】 指導力向上のための日々の継続的な取組

<成果> 思考力等を育成する授業の改善

- ・コア・アクティブ・リーディング校や学体訪問での代表者授業、学力・体力向上推進教員による支援、「kitaQせんせいチャンネル」の授業動画等で、よい授業のイメージが共有された。
- ・単元末テストや定期考査改善、「わかる授業」の基礎・基本マネジメント研修等により、授業改善が進んだ。特に、「話し合う活動」により、思考の深まりや広がりが見られるなど、小・中学校ともに思考力等を育成する授業へと改善が進んでいる。

<今後の方向性>

教員の指導力向上に向けた具体的な支援

- ・「わかる授業」づくり5つのポイントの質の向上
- ・ICT環境の着実な整備と教員の指導力向上
- ・SDGsを中心としたシビック・プライドの醸成等、指導力向上に向け、具体的に支援を行う。

【柱3】 学力定着に向けた協働的な取組

<成果> 組織的・効率的な補充学習の定着

- ・効果的・効率的な補充学習サイクルを構築し、全校体制で取り組む学校が増えている。
- ・「学力定着サポートシステム」の活用により、児童生徒の課題に応じた補充学習が実施されるようになった。

<今後の方向性>

小中9年間を見通したきめ細かな教育体制の確立

- ・「学力定着サポートシステム」や「ひまわり学習塾」を活用した補充学習の質の向上
- ・家庭学習を意図的・計画的に実施し、学習習慣を形成できるように、小中9年間を見通した、宿題や自学の行い方のルールづくりと徹底



平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書

発行

北九州市教育委員会
学力・体力向上推進室
〒803-8510

北九州市小倉北区大手町1番1号

TEL 093-582-3445

FAX 093-581-5873

印刷物登録番号

第1823038A号